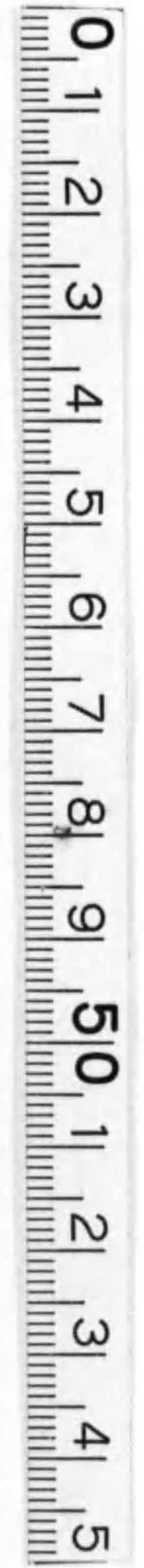


602.23-073ㄅ  
1200500747878  
602.23  
773  
ㄅ

大東亜共榮圏の常識  
大阪南方院編



始





967  
E  
110

昭和十八年六月

大東亞共榮圈の常識

大阪南方院



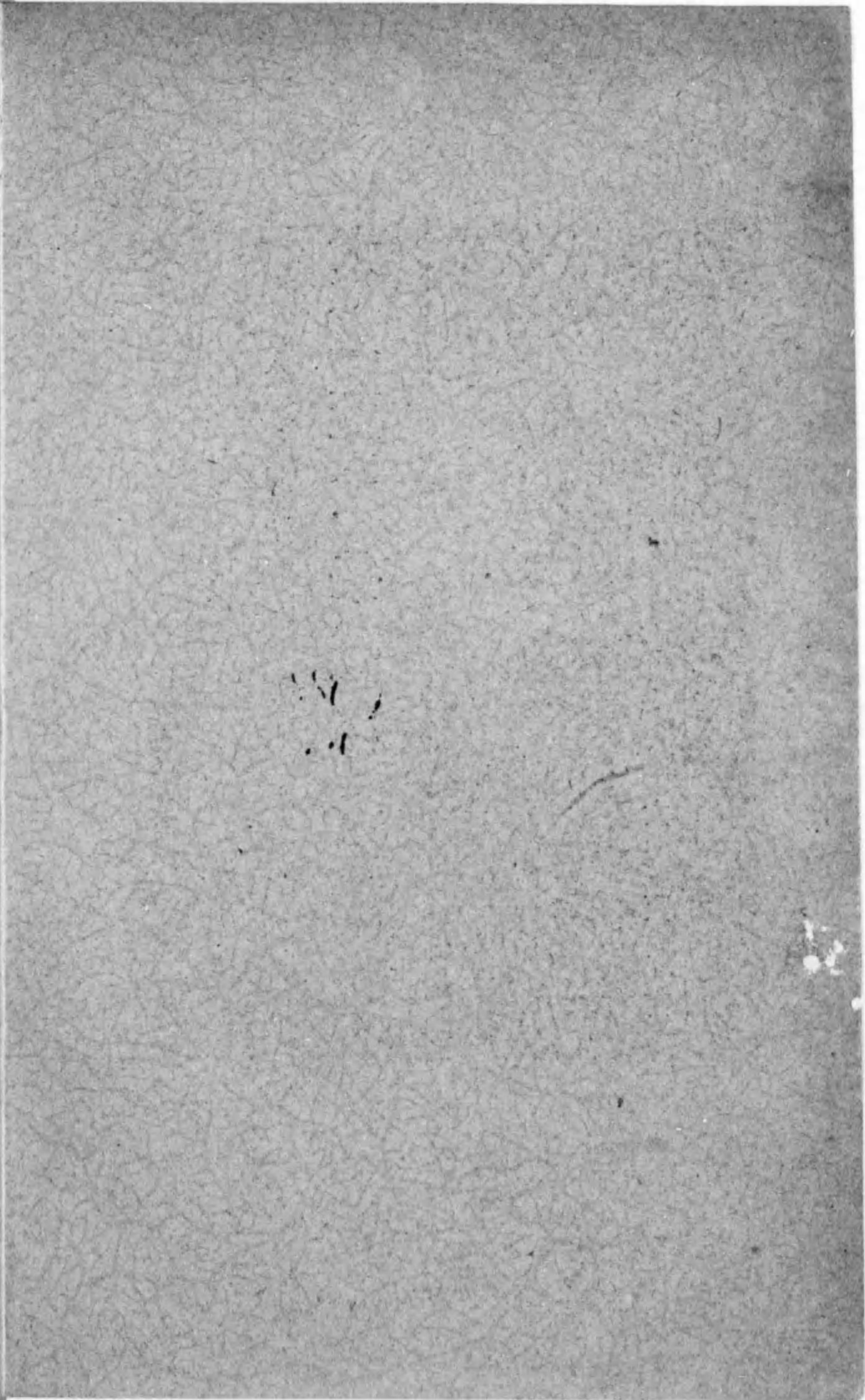
602.23

0.73



「南方共榮の肇國以來の大理想實現の足場を固むるに至つた」

東條内閣總理大臣







←

中華民國國民政府行政院長  
汪精衛氏

「同安共危、同生共死」の精神をもつて……  
大東亞戰爭協力に集中する……………」



→

泰國首相兼國防外務相  
ルアン・ピグン・ソクラーム氏

「日本はアジア解放の指導者となつた、今や全  
アジア民族が力と心とを日本に結合させ、この  
大問題貫徹につとむべきである」



滿洲國皇帝陛下

「盟邦の聖業完遂のため物心兩面をあげて協力すべし」



602.23  
 73  
 ㊦



神武天皇

「六合くじのちヲ兼ネテ以テ都ヲ開キ、八紘あめがしたヲ掩ヒテ宇いへ爲サムコト、亦タ可カラズ乎」

(日本書記)



「亞細亞のフィリッピンたらしむるに努力」

フィリッピン行政長官  
 ホルヘ・ヒー・ヴァルガス氏



昭和十八年三月廿三日畏くも 天皇陛下に拜謁の  
 榮を賜り、且つ優渥なる御言葉を賜った  
 「この光榮と感激とは終生忘れえぬ」と謹話

ビルマ行政長官  
 パ・モ博士



目次

大阪南方院設立の趣旨 ..... 一  
大阪南方院規程 ..... 二  
大阪南方院業務要綱 ..... 二  
大阪南方院興亞館 ..... 四  
大阪府南方塾 ..... 四  
大東亞共榮圈の常識 ..... 五  
南方華僑の概要 ..... 三一  
南方共榮圈各國の素描 ..... 三四

大阪南方院設立の趣旨

由來、關西の地は古代の遺隋及遺唐使船、少しく後代の日宋貿易船並に日鮮貿易船、更に足利時代の日明勘合符貿易船、更に亦安土、桃山時代より徳川幕府初期に至る御朱印船の發着地として本邦對支及南方貿易上の一大要衝であつた。従つて關西の中樞たる大阪の商業は頗る殷盛を極めたるのみならず、絢爛たる各國文化の交流地であつた。

斯くて、天下の商權を一手に把握したる大阪は徳川の鎖國時代に於ては國內商業の中心として營々其の實力を培養し來つたが、幕末に至り開國となるや歴史的に又地理的に優越なる地位を占むる上に、その蓄積したる巨大商業資本を工業方面に投資せるを以て「商業大阪」の地は遂に世界屈指の工業地をも形成し、日清、日露の兩戰役、第一次歐洲大戰、滿洲及支那の兩事變を経て内外人驚嘆裡に「經濟大阪」の實力は、或は滿支大陸に、或は南方諸地域に向つて壓倒的な勢を以て伸張して行つた。

今や、雄渾、壯大なる大東亞聖戰の行はるる處、陸に、海に、空に、赫々たる大戰果は隨所に擧げられ、國威は八紘に輝き、國運の隆昌は實に肇國以來の躍進を示し、此の聖代に生を皇國に享けたる吾々は等しく民族的感激と喜悅に浸りつある。

如斯時流に鑑み、大東亞共榮圈物資交流の基地たるべき大阪に於ては、府、市、商工會議所の代表者相寄り協議の結果、大阪南方院を設立した。本院は審議會及事務局によつて構成され、審議會は大阪府、市、商工會議所の代表者、並に民間有力者を理事に委嘱し、大東亞建設に關する重要事項を審議し、事務局は從來府、市、商工會議所の三者に依つて夫々別個に運営されつゝあつた對外經濟關係業務を一括取扱ふものである。

叙上の如く大阪南方院は大阪府、市、商工會議所の總意に基く文字通りの三位一體、官民一如の總合機關として大東亞建設の崇高なる大使命を達成する國策の線に沿ひ、一意専心、奉公の誠を致すべく設立せられ、去る昭和十七年六月十日の佳日を卜し堂々發足したものである。



# 大阪南方院規程

## 南方院業務要綱

- 第一條 本院ハ大阪南方院ト稱ス
  - 第二條 本院ハ國策ニ則リ大東亞共榮圈産業貿易ヲ昂揚セシムルヲ目標トシ、大阪府、大阪市及大阪商工會議所ニ於テ從來施行シ及ビ將來施行スルコトアルベキ對外經濟關係業務ヲ一元的ニ取扱フヲ以テ目的トス
  - 第三條 本院ニ審議會ヲ置ク  
審議會ハ本院業務遂行上重要ナル事項ニ就キ審議ス  
審議會規程ハ別ニ之ヲ定ム
  - 第四條 本院ニ事務局ヲ置ク  
事務局ハ大阪府、大阪市及大阪商工會議所關係職員共他ヲ以テ之ヲ構成ス
  - 第五條 本院ノ經費ハ當分大阪府、大阪市及大阪商工會議所ニ於テ之ヲ分擔支出スルモノトス
- 一、大東亞共榮圈確立ニ關スル方策ノ樹立並意見ノ具申
  - 二、大東亞共榮圈確立ニ關スル基礎的調査及研究
    - 1、共榮圈諸國事情ノ調査並研究
    - 2、海外諸國事情ノ調査並研究
    - 3、共榮圈綜合經濟力發揚ニ關スル調査並研究
    - 4、共榮圈諸國ニ對スル經濟的進出ノ調査並研究
    - 5、共榮圈貿易機構確立ニ關スル調査及研究
    - 6、輸出産業振興ニ關スル調査及研究
    - 7、共榮圈內ノ工業立地計畫ニ關スル調査及研究
    - 8、其ノ他共榮圈確立ニ關スル諸方策ノ諸查及研究
  - 三、海外資料及情報ノ蒐集並公開
    - 1、大東亞共榮圈資源見本ノ蒐集並公開
    - 2、大東亞共榮圈各國ニ關スル圖書資料ノ蒐集並公開
    - 3、海外商品見本型錄及ポスター等ノ蒐集並公開
    - 4、海外情報ノ蒐集並公開

967  
110

- 5、其他大東亞共榮圈各般資料ノ蒐集並公開
- 四、大東亞共榮圈諸國現地調査指導機構ノ設置運營
- 五、大東亞共榮圈事情ノ紹介並普及
  - 1、講演會、懇談會ノ開催
  - 2、講習會、講座ノ開講及講師ノ派遣
  - 3、展覽會、博覽會ノ開催
  - 4、映畫ノ製作
  - 5、共榮圈事情ノ紹介並普及ニ關スル事業ノ助成
- 六、刊行物ノ編纂並出版
  - 1、大東亞共榮圈諸國事情紹介ニ關スル出版物ノ刊行
  - 2、大東亞共榮圈諸國ニ對スル本邦事情宣傳出版物ノ刊行
  - 3、産業經濟ニ關スル出版物ノ刊行
  - 4、海外情報ノ編纂刊行
  - 5、大阪商品型錄ノ編纂並刊行
  - 6、其ノ他定期、不定期出版物ノ刊行
- 七、貿易ノ統制並指導
  - 1、貿易機構並貿易業ノ整備
- 八、輸出産業ノ指導
  - 1、輸出品並工藝品ノ改善指導
  - 2、圖案、廣告、意匠ノ指導
  - 3、輸出産業ニ關スル展覽會博覽會等ノ開催助成
  - 4、優秀新規見本試作ニ關スル助成並海外紹介
  - 5、大東亞共榮圈資源ノ利用斡旋
  - 6、其他輸出産業ノ振興輔導
- 九、産業經濟ノ海外進出指導斡旋
  - 1、企業ノ大東亞共榮圈諸國進出ノ指導
  - 2、海外進出人材ノ移駐斡旋
  - 3、大東亞共榮圈諸國進出者ノ輔導並連絡



#### 十、海外進出人材ノ鍊成

- 1、鍊成機關ノ設置並運營
  - 2、鍊成機關ノ助成指導
  - 3、中央鍊成機關トノ連繫
- 十一、本邦事情ノ大東亞共榮圈諸國ニ對スル紹介並普及
- 1、展覽會、博覽會ノ開催
  - 2、見本市ノ開催
  - 3、本邦事情ノ紹介並普及ニ關スル事業ノ指導助成
- 十二、海外見本市、展示會ノ開催並ニ誘致及之ガ助成
- 十三、海外調査團、視察團派遣並ニ誘致及之ガ助成
- 十四、經濟團體、國際關係團體ノ指導助成
- 十五、大東亞共榮圈各國知名人士ノ誘致交驩
- 十六、商品陳列所ノ經營公開

#### 大阪南方院興亞館

北區梅田阪急ビルディングの

七、八階に在り、共榮圈市場蒐集品の常設展示及各種展覽會の開催、座席千人以上を有する大講演場、共榮圈關係資料閱覽室、其他大小會議室等の設備がある

#### 大阪府南方塾

産業經濟の戰士として挺

身活躍せむとする青年子女の爲め心身の鍛鍊と現地の事情及言語に習熟せしめん爲めに設けたもの、百五十餘名(内女子三十名)の塾生を教育してゐる、校舍には東區糸屋町と府下池田城趾とにある

## 大東亞共榮圈の常識

### 地域一般

大東亞共榮圈の範圍は確然たる一定

のものではなく、戰果の進むに従ひ、又亞細亞諸民族の動向により、その範圍は常に擴大されて行くであらう。國民の理想としては、南は南北太平洋と印度洋を貫き、濠洲及新西蘭と英領印度に至る大地域を抱含し、國防資源の自給自足によつて百年不敗の態勢を調へることにある。

今日わが勢力圈に入つた地域丈を一應共榮圈として眺めみると北は北滿の黒龍江沿岸漢河縣(北緯五十三度半)より、南は東印度チモール島の西南海上にあるロチ島(南緯十一度)まで、この間約七千五百軒に達し、東はわが南洋群島の東端ナリギリツク島(東經百七十二度)より、西はビルマのベンガル灣岸、印緬國境(東經九十二度)まで、この間約八千八百軒に達する廣大なる地域に亘つてゐる。

### 南方共榮圈地域の特質

南方共榮圈地域の

大半が海洋を控へてゐるといふことは、米洲やソ聯邦等に比し、物資交流の至便は比較にならない。しかもその海洋は一大多島海であつて、多く肥沃なる火山土壤をもつて成り、多雨と海洋性氣候に恵まれ、熱帶の豊富にして多種類の産物を抱藏してゐる。更に又、赤道に踞る東印度は南米とアフリカの赤道地帯に比して、前者が島嶼的氣候に恵まれ、人口多く、豊富な熱帶性農産物の有力な供給地であるとともに地下資源も豊富であるが後者は大陸の一部であつて灼熱瘴癘の地で、人跡未踏の部分も多く、産業的にも殆んど云ふべきものがないことなども比較にならぬ。かつて和蘭女王が「赤道に掛けたるエメラルドの首飾」と嘉賞したのも故なしとはしない。



### 氣象

共榮圏の占める範圍は北は亞寒帯より、南は赤道以南に及び、生物界では寒、温、熱三帯に亘つた分布圏を擁してゐる。北はアジア大陸の一半を占めてゐるの内部の氣候は大陸性で雨量少く、北支、蒙古、滿洲の一部は不毛の原野をなしてゐるが、南部は所謂大東亞海を擁し、多くの島嶼は海洋性氣候に恵まれ密林と農耕地の發達が著しい。

外南洋より東亞にかけては季節風地帯をなし、夏季の南西風は南海の濕氣を運び、雨量多く、米作地域を形成してゐる、併しこの地方は颱風と豪雨の襲來を受けることが多い。冬は北東風が吹き一般に乾燥するが、比島の東岸、東印度の一部には細雨が降り続く。赤道附近では一般に風勢弱く、ジャワ島等赤道以南に於ては濠洲季節風の影響を受け、以上とは風向を異にし乾濕兩期も相反してゐる。

### 人口

共榮圏の人口は總計七億四千萬で、印度、セイロンを加へると十一億となる。これは世界人口總計二

て今後の發展性を豫約してゐるわけで、これ等の點は確かに共榮圏の強味といふことが出来る。共榮圏各地に於ける人口の密度の内、特別事情にある小地域を除けば、ジャワ及マヅラが最も多く、一方籽に付三百十六人となり、わが内地よりも六四%も多く世界に於て最も人口稠密な地域となつてゐる。次はわが内地で、更に臺灣、支那本部と云ふ順序になつてゐる。

人口の増加率も最近は歐米諸國に比し非常に高く出生率の高いことは共榮圏全般の特徴といへよう、しかし遺憾ながら死亡率も亦一般に高きは文化の水準の低きを物語つてゐるが、これは住民の厚生と經濟の昂揚に俟たねばならぬ。

### 職業

共榮圏諸國は殆んど總て旺盛なる農業國であり、従つて農業人口の占める割合は壓倒的である。

滿洲國は農業及林業者は有業者人口の七一%に當り、泰國は約八八%、東印度は六七%、比律賓は四一%となつてゐる。我國の農業人口は四八%で、最近は鑛工業の擴充のた

共榮圏の地域・人口等

	面積 (千方籽)	人口 (千人)	人口密度 (一方籽)	女一〇〇 = 付男比	人口自然 増加率%
日本内地	383	73,114	191	100.05	9.3
朝鮮	221	24,326	110	101.71	18.4
臺灣	36	5,872	163	102.39	23.3
樺太	36	415	12	137.00	21.7
帝國計(其他共)	681	105,226	155	101.08	18.2
滿洲國	1,303	43,233	33	123.85	5.0
支那	10,362	448,034	43	—	8.5
比律賓	296	16,356	55	100.76	19.2
佛領印度支那	740	24,807	33	—	12.5
泰馬	518	15,718	28	91.99	24.1
馬來	132	5,465	41	145.96	23.0
ビルマ	605	16,282	27	104.39	9.0
東印度	1,904	70,476	32	—	9.5
計	16,541	745,597	48	—	—
印度	4,080	370,753	91	106.38	12.1
濠洲	7,704	7,044	1	103.20	7.9
新西蘭	268	1,646	6	103.16	9.5

(厚生省人口問題研究所調、日本及滿洲人口、昭和15年)

十一億四千五百萬に對し五一%を占め、歐洲の四億、米洲の二億七千四百萬に比し三大圏の最高にある。しかも人文の發達は一般に未だ低位にあり、消費、生産兩方面におい

共榮圏主要國職業別人口 (單位 1000人)

	日本	滿洲國	泰	東印度	比律賓	印度	濠洲	新西蘭
農業及林業	14,140	21,722	6,049	14,044	3,483	19,731	574	139
水産業	547	50		268	181	1,030	15	—
鑛業	251	173	15	52	47	404	69	8
工業	5,700	1,033	130	2,209	601	17,524	866	141
商業	4,478	1,635	357	1,293	271	9,337	451	79
交通業	1,103	109	59	316	231	2,779	224	51
公務自由業	2,044	1,318	113	886	99	4,819	356	50
家事使用人	781	2,838	82	342	3,478	12,674	342	44
其他有業者	571	1,701	18	1,661	103	8,500	—	—
有業者計	29,621	30,581	6,824	20,871	8,466	166,800	2,697	512
無業者	34,830	4,953	6,931	39,856	2,437	186,037	—	980
計	64,450	35,534	13,805	60,727	10,904	352,838	6,630	1,491
調査年度	昭和5年	" 12年	" 12年	" 5年	" 14年	" 6年	" 8年	" 10年



め、これら方面の人口は相當上昇したが、ただ、農業的要素は濃厚であり、今後ともこの程度の農業人口は確保すべきであらう。工業人口は我國の一九%を除けば、他は凡て格段の相違があり、工業的要素の稀薄なことが判る。

支那の人口は約四億で共榮圏の人口七億四千萬に對して半數以上を占めてゐる。この大人口を擁する部分の職業人口が委細不明である、しかし支那の産業は農業が大部分を占める、しかし支那の農民は八〇%前後であることは推定出来る。ビルマも不明であるが、同地も農産地であり、支那と同様の割合である。

### 都市

滿洲國は建國以來既に十年の歲月を経て居り、其間凡ての部局に亘つて著しい進展を遂げたが、舊都市の膨脹と、新都市の勃興とは實に驚くべきものがある。牡丹

江の如きは十年前は人口三千五百の一寒村に過ぎなかつたが、今日では約六十倍の人口を擁し、滿洲國第六位の大都市となつてゐる。支那は事變後は相當變貌してゐるであらう。南方共榮圏に於ては大都市が少ないがこれは近代工業の發達が後れ、産業の大半が農業に占められてゐるためである。人口密度世界一のジャワに於ても、同じ傾向が窺はれ、大都市が比較的少く、地方的な小都市に人口が分散されてゐる。

### 民族

大東亞共榮圏は地域的に非常に廣範圍に亘るから民族の種類も多い、また此地域は世界に於ても民族と文化の最も混淆した地方の一であり且つ甚だ大きな部分が歐洲列強の植民地であつた關係上更に民族を複雑にしてゐる。民族別人口数の最もハッキリしないのは支那で適確なる數字は掴み得な

共榮圏主要都市人口

	昭和	人口		昭和	人口
滿洲國	年		青島	11年	466
奉天	16	1,313	蘇州	3	350
哈爾濱	〃	720	張家口	14	100
新京	〃	527	厚和	〃	260
安東	〃	313	大和	〃	75
撫順	〃	280	香港	12	1,007
牡丹江	〃	約 210	比律賓		
普蘭店	〃	207	マニラ	11	355
鞍山市	15	207	セブ	〃	110
旅順	16	203	ラオス	〃	47
支那			アンガ	〃	46
上海	11	3,703	イロイロ	〃	46
北平	〃	1,576	佛印		
天津	〃	1,200	シヨロン	〃	207
南京	〃	1,210	西貢	〃	190
無錫	5	900	ハノイ	〃	132
漢口	11	800	プノム・ペン	〃	108
成都	1	700	ハイフオン	〃	79
杭州	11	574	泰盤	4	931
長沙	3	534			
重慶	11	500			

(單位 1000人)

	昭和	人口		昭和	人口
馬來	年		ハイドラバード	6年	467
昭南島	13	710	デーク	〃	447
クランブル	〃	127	ラホール	〃	430
マラツカ	12	43	アマダバド	〃	314
ビルマ			ラクノ	〃	275
ラングーン	6	400	アムリツアル	〃	265
マンダレイ	〃	148	カラチ	〃	264
モールメン	〃	65	セイロン		
東印度			コロンボ	6	284
ジャカルタ	5	533	漆洲		
スラバヤ	〃	342	シドニイ	12	1,279
スマラン	〃	218	メルボルン	〃	1,024
バンドン	〃	167	ブリスベン	〃	318
スラカルタ	〃	165	アデレイド	〃	318
ジョクジャカルタ	〃	137	新西蘭		
パレンバン	〃	108	オー克蘭ド	13	217
マカツサル	〃	85	ウエリントン	〃	154
メダ	〃	77	クライストチャチ	〃	134
印度			ダネデイン	〃	83
カルカツタ	6	1,486	布哇		
ボンベイ	〃	1,161	ホノルロ	13	153
マドラス	〃	647	ヒロ	〃	16



共榮圏の民族 (単位 1000人)

	人 口	%		人 口	%
日本帝國	105,226		泰		
滿洲國			タイ人	14,334	91.2
漢人	35,050	81.0	支那人	608	3.9
滿蒙人	5,132	10.5	印度人・馬來人	519	3.0
蒙古人	1,163	2.6	カンボヂヤ人	44	—
ツングース人	221	—	安南人	3	—
内地人	497	—	白人	210	1.4
朝鮮人	1,102	2.5	其他	15,718	100.0
歐米人	13	—	總數		
無國籍人	48	—	馬來		
總數(其他共)	43,233	100.0	馬來人	2,284	40.1
支那			支那人	2,382	40.1
漢人	460,000	90.0	印度人	744	13.4
トルコ族	36,000	8.0	ユーラシア人	19	—
西藏族	3,500	0.8	歐洲人	31	—
蒙古族	350	—	其他	59	1.0
總數	448,034	100.0	總數	5,520	100.0
比律賓			ビルマ		
比島人	15,833	98.8	ビルマ人	9,555	60.0
内(混血)	1,600	10.0	其他原住民	5,140	31.5
支那人	117	0.7	支那人	215	—
日本人	29	0.2	印度人	1,070	6.5
米國人	8	0.1	其他	302	—
英國人	1	—	總數	16,282	100.0
西班牙人	4	—	東印度		
獨逸人	1	—	日本人	8	—
總數(其他共)	16,000	100.0	原住民	68,682	97.4
佛印	(1936)		支那人	1,382	2.0
安南人	16,679	72.4	歐洲人	259	—
カンボヂヤ人	2,925	12.7	(内和蘭人)	242	—
泰人	1,375	6.0	インドネシア人	10	—
インドネシア人	1,017	4.4	其他アジア人	133	—
支那人	326	1.4	總數	70,476	100.0
歐洲人	42	0.2			
其他	635	2.8			
總數	23,030	100.0			

い。支那國民が漢、滿、蒙、回(トルコ族)、藏(西藏)

の五種族より成るのは周知の事であり、特に漢民族は歴倒的に多く全人口の約九割を占めることも略確實である。滿民族は大體漢民族中に吸収されて了つた形であり、蒙古族(ツングース族)は外蒙古及び蒙疆地域に居るものを除けば三十數萬人、トルコ族は三千六百萬、西藏族は三百數十萬人と見られてゐる。此の外に南支那には若干の苗族其他が居る。

泰、ビルマ、佛印、東印度等には相當混血人が居るが泰などの場合を除いては絶對數はさう多くない。

宗教

支那に於ける宗教別數字は判明しない、支那では孔教、道教、佛敎の三つが最も普遍的であるが、この中の一宗教にのみハッキリした信仰を持つといふやうな者が少ないのである。これらは他宗教の項に入れてある、其他アニミスト(未開人に通有な精靈信仰者)も含んでゐる。

宗教不詳の

支那人を除き考察すると、共榮圏に於ては、佛敎徒(日本をも含めて)が最も多く約一億二千萬人である。回教徒は數に於て第二位で圈内に約一億人と推定される。尤も佛敎といひ、回教と云ふも各地方により夫々特色ある

東亞共榮圏宗教別人口 (単位 1000人)

	佛敎	回教	基督 舊教	基督 新教	不詳又ハ 其他宗教	總人口	
滿洲國	...	300	90	150	42,460	43,000	概算
蒙疆	...	500	...	...	5,200	5,700	〃
支那	...	36,000	2,600	740	400,660	440,000	〃
比律賓	48	678	12,603	378	2,293	16,000	(1939)
佛印	21,400	300	1,300	...	...	23,000	概算
泰	10,958	498	37	13	580	11,685	(1930)
馬來	—	2,300	68	...	2,019	4,385	概算
ビルマ	12,450	590	...	340	1,090	14,670	(1931)
東印度	1,000	54,000	—	5,000	...	60,000	概算
ボルネオ	—	200	...	...	560	760	〃



ものに發達して居り、同一宗教だと同一色とは見做し難いものである。

本邦の共榮圈投資額 (單位 1000圓)

被投資國	礦業	林業	水産	商業	栽培	計
滿洲國						4,557,500
支那						1,800,000
比律賓	1,330	12,237	—	7,419	67,000	87,986
佛印	—	—	—	903	—	903
馬來	237	—	—	434	500	1,271
東印度	42,785	600	2,614	3,256	30,679	69,934
ボルネオ	2,543	—	3,542	8,838	27,373	42,296
其他南洋	—	6,294	—	61	13,730	20,085
計	14,419	3,000	5,380	—	—	22,799
計	61,314	22,131	11,536	20,911	139,282	245,274

外國投資

各國別投資額の内對支投資は主として借款で直接の事業投資は殆ど含まぬものであり、對南洋投資は殆ど全部が直接の事業投資である、又對支投資中英米の分は重慶政府への貸付が大きい

財政

大東亞共榮圈諸地方の財政は之を合計すれば七、八十億圓のものである。此の

いが、それ以前の對支投資も含まれてゐる。南方圏では和蘭の對東印度投資が何といつても大きなもので日本の南洋投資は從來までは微々たるものだが、今後は此の方面へ相當額の投資を必要としよう。今後之等地方に對する我が國の投資は大抵は生産設備資材の供給といふ形で行はれるのであるから、それら生産財の生産擴充こそ急務である。

各國別投資額 (單位 百萬圓)

	對支投資	%	對南洋投資	%
日本	1,796.6	37.5	245.3	2.6
英國	2,106.8	43.8	2,105.0	22.1
美國	640.5	13.3	127.5	1.3
和蘭	25.4	0.5	5,695.0	59.6
支那	—	—	935.0	9.8
白耳義	64.9	1.3	170.0	1.8
佛國	78.4	1.6	127.5	1.3
其他	100.0	2.1	136.0	1.3
計	4,812.6	100.0	9,541.3	100.0

(昭和15年現在)

内我が國が過半を占めるのであるから、他地方の財政は金額から見れば少いもので、つまりそれだけ軍備でも文化でも立運れてゐるわけである(我國の豫算中には事變費を含んでゐない)比律賓、佛印、泰など一ヶ年一億數千萬圓の財政で、これは大阪市の六割、東京市の半分ほどの金額である。東印度などは比較的に多い方だがそれでも我が國の財政金額の三分の一ほどのものである。支那の財政に就ては正確なことを知り得ないが、支那事變前の中央政府歳出は七億圓乃至八億圓ほどで、此の内軍事費は約四億圓であつた。

貿易總觀

大東亞共榮圈の貿易總額は邦貨に換算して輸出入各約百億圓ほどになる。併し此の中には香港、新嘉坡など大部分仲繼たる貿易も含まれるから、實際の貨物の動きは八十億圓ほどであらう。貿易總額の内、約六割は日本をも含む大東亞共榮圈内の貿易であり、残餘は大部分英米又は其屬領との貿易である。共榮圏外から圈内諸國へ供給されてゐた物資は三十億圓乃至三十五億圓ほどであ

共榮圈各國の歳出・歳入 (爲替相場により換算)

單位	其國貨幣額 (單位百萬)			邦貨換算額 (百萬圓)		
	昭和12	" 13	" 14	昭和12	" 13	" 14
日本	出 2,709	3,288	4,494	2,709	3,288	4,494
	入 2,914	3,595	4,970	2,914	3,595	4,970
滿洲國	出 248	305	403	248	305	403
	入 248	305	403	248	305	403
比律賓	出 41	69	79	72	122	153
	入 52	69	79	91	122	153
佛印	出 59	89	171	71	97	167
	入 67	89	171	80	87	167
馬來	出 98	102	111	150	155	170
	入 120	109	117	183	166	179
東印度	出 139	174	—	282	349	—
	入 153	164	—	309	329	—
印度	出 569	588	635	1,100	1,137	1,311
	入 531	558	591	1,025	1,078	1,220
澳洲	出 1,225	1,217	1,240	1,593	1,582	1,612
	入 1,217	1,211	1,240	1,582	1,573	1,612
新西蘭	出 115	121	127	1,587	1,652	1,712
	入 35	36	38	477	480	505



大東亞共榮圈の貿易 (單位 百萬圓)

	貿易總額			日本との貿易			其他の共榮圈内貿易			英米及其屬領(但共榮圈内諸國を除く)との貿易		
	昭和12	〃 13	〃 14	昭和12	〃 13	〃 14	昭和12	〃 13	〃 14	昭和12	〃 13	〃 14
日本(内地)	{ 出 3,175	{ 出 2,690	{ 出 3,576	—	—	—	1,228	1,404	3,013	1,453	900	1,251
	{ 入 3,783	{ 入 2,663	{ 入 2,918	—	—	—	817	837	979	2,261	1,395	1,489
朝鮮	{ 出 143	{ 出 205	{ 出 353	—	—	—	116	192	333	18	9	16
臺灣	{ 出 172	{ 出 173	{ 出 210	—	—	—	127	129	151	35	37	42
滿洲國	{ 出 645	{ 出 726	{ 出 835	322	417	521	123	126	170	28	113	74
	{ 入 887	{ 入 1,275	{ 入 1,816	666	993	1,541	53	76	71	114	135	121
支那	{ 出 839	{ 出 764	{ 出 1,031	87	118	67	231	350	424	205	197	364
	{ 入 953	{ 入 886	{ 入 1,334	154	213	313	175	182	177	319	306	429
香港	{ 出 500	{ 出 550	{ 出 568	21	4	7	322	364	283	72	85	116
	{ 入 662	{ 入 665	{ 入 632	26	20	29	333	369	923	112	132	108
比律賓	{ 出 581	{ 出 516	{ 出 630	35	26	31	5	5	11	508	558	515
	{ 入 383	{ 入 465	{ 入 475	37	45	29	19	21	36	256	340	353
佛印	{ 出 308	{ 出 278	{ 出 343	13	9	16	78	66	93	32	33	80
	{ 入 186	{ 入 191	{ 入 233	6	5	4	49	46	55	16	22	28
泰	{ 出 259	{ 出 312	{ 出 330	9	4	19	209	211	235	10	66	57
	{ 入 171	{ 入 198	{ 入 298	37	29	28	60	87	74	38	46	156
馬來	{ 出 1,826	{ 出 1,165	{ 出 1,500	122	108	128	151	146	165	1,128	618	980
	{ 入 1,408	{ 入 1,100	{ 入 1,256	82	25	25	794	615	830	369	349	304
ビルマ	{ 出 655	{ 出 625	{ 出 705	15	12	28	48	40	44	450	463	573
	{ 入 310	{ 入 268	{ 入 322	27	18	26	15	13	16	220	206	255
東印度	{ 出 1,839	{ 出 1,273	{ 出 1,545	86	42	54	458	299	385	491	397	592
	{ 入 947	{ 入 925	{ 入 978	280	139	176	118	136	143	235	226	269
計	{ 出 10,770	{ 出 9,104	{ 出 11,416	710	740	871	2,969	3,203	5,160	4,395	3,529	4,618
	{ 入 9,862	{ 入 8,809	{ 入 10,472	1,351	1,487	2,171	2,560	2,511	3,455	3,975	3,194	3,554

英米への貿易依存

前表最後の項

る。此の内、幾許を圈内貿易に轉換し得るか  
は客易に計算し得ないが、最少限度に於て我  
が國が代つて供給すべき工業製品は十億圓位  
であらう。其他は不自由を忍びつゝ、圈内産業  
の再編成によつて自給に努力すべきである。

に示した英米及其屬領との貿易は東亞共榮圈  
諸地方を除外したものであるが、それでも貿  
易總額の約四割を占めてゐる。此の外に香  
港、比島、泰、馬來、ビルマ、蘭印など總て  
米英の經濟的勢力圏だつたのだから、戦前の  
東亞の貿易は約八割が英米依存だつたのであ  
る。

大東亞共榮圈に印度、濠洲、新西蘭等を加  
へれば、共榮圈貿易の過古に於ける英米依存  
割合は更に増大するわけで、此の場合は貿易

總額の約九割が英米依存だつた。

英米は東亞を搾取することにより其の強大な經濟力を得たのであつたから、東亞の貿易が英米により殆ど獨占されるが如き形にあつたのも當然と云ひ得られやう。大東亞圈諸國の貿易は日、滿、支を除けば大體に於て出超を示すが殆ど毎年の例であるが、此の出超は即ち投資利益として英米に取られてきたのであつた。

世界不況前に於ては英國は毎年約三億圓の新投資を東亞圈に對して行ひ、米國も亦何千萬圓かの新投資を行ひ、東亞の經濟が繁榮すれば搾取額も亦大きくなつて行く仕組であつた。斯のやうに英米は東亞の經濟を抑へてゐたのであるから、東亞は英米に反抗し得ないと高を括つたのが、今度の英米の敗因である。

今や英米は從來の優越を根こそぎ失つた。

米

米はアジアの特産物でその産額は世界産額の九五%を占めてゐる。米穀産額は支那の産額が除かれてあるので、支那を加へると共榮圈の産額は凡そ九千萬圓とな

米穀産額 (單位 1000噸)

	昭和11—12	〃 12—13	〃 13—14	〃 14—15	米ノ過不足
日本内地	12,498	12,309	12,225	12,806	自給可能
朝鮮	3,631	5,013	5,480	2,664	餘剩アリ
臺灣	1,774	1,714	1,822	1,688	少々餘ル
滿洲國	597	689	750	870	例年不足
支那	48,015	(5,000)	...	...	〃
比律賓	2,396	2,279	...	...	〃
佛領印度支那	6,316	6,039	7,134	...	大量過剩
泰	3,380	4,554	4,524	5,083	〃
馬來	502	470	536	—	例年不足
ビルマ	7,196	6,973	8,169	7,107	大量過剩
東印度	5,917	6,257	6,137	...	大體不足
計(除支那)	44,375	46,758	...	...	ジャワ自給 外領不足
印度	42,454	40,737	36,337	38,532	近年不足
亞細亞計(其他共)	87,450	88,050	85,050	85,000	
世界計(〃)	93,840	94,360	91,400	91,600	



り従つて世界産額も約一億三千五百萬噸となる。

支那の産額は最も多いけれど最近數字は不明である、大體五千萬噸に近い收穫と察せられる。中支、南支に最も多く、北支は比較的少く大量の輸入をなしてゐる。滿洲國も同じく輸入國である、我國は朝鮮、臺灣よりの移入によつて自給の域にあつたが昭和十四年以來佛印、泰より相當輸入を續けてゐた。東印度中ジャワとマヅラ島は古來から有名な米産地であり、一方籽三一六人といふ世界一の稠密な人口を養つて殆ど自給の域にあるが、外額はバリ、ロンボック兩島の外は殆ど産せず、多量に輸入してゐる。

馬來はゴム、比律賓は甘蔗栽培の爲め米作が壓迫されて、ともに米の輸入國である、殊に馬來は年によつて同地産額の二倍に近い輸入をしてゐる、共榮圏においてはゴム、砂糖はともに過剰物資であり、これ等の地方も將來は主食作物に代替されることにならう。これを見ても米英は屬領民の生活保全などを考へてゐなかつたことが判る。

米の輸出國は泰、佛印、ビルマの三國で約五百萬噸の輸出餘力がある。佛印では東京地方と交跡支那に最も多く産

し同地産額の七〇%を占めてゐる。ビルマから印度及びセイロン島向け輸出が止まると共榮圏で百五十萬噸前後の過剰が生ずることとなる。

以上諸地方のヘクタール當り收穫高は我國に比し殆ど三分の一程度で將來農業技術の改良により相當の増産は期待出来よう。

### 砂糖

南方共榮圏諸國では大抵の國には甘蔗の栽培を見るが、大量生産國はわが臺灣と比島及び東印度である。わが國は生産の一部を滿洲國と支那に向けてゐる以外は大部分を國內消費に當てゝゐる。比島は生産の八〇%を輸出し、輸出の九〇%は米國に向けられ、東印度は生産の七〇%を輸出し、大體輸出の約三五%はスエズ以西に向けられてゐた。つまり百四五十萬噸が歐米に積出されてゐたが今後この數量が過剰と見られるわけである。我國、比島及び東印度産額を合して四百萬噸になるがこれは世界産額の約二三%に當り、圈内人口と考へ合はせると決して多いとは云へない。しかも之がゴムや錫と共に共榮圏過剰農産

物として宣傳される所以は圈内消費が餘りに少いためである。支那や印度の如き人口の多い地方で國民當りが少し増せば過剰の問題は直ちに解消するわけである。

### 比島の砂糖と獨立問題

東亞共榮圏では差當

つて砂糖は過剰なのであるから比律賓のやうな生産費の高い處では之を生産制限し、他作物に轉換せしめる必要がある、比島では減産が當面の問題でなければならぬ。

比島の砂糖生産費はわが臺灣の約二倍、ジャワの三倍近くにも達する高いもので、從來はアメリカ本國が無税で輸入したから成立つたので今度の戦争がなくともいづれ比島が獨立すれば、此の特恵は停止され、甘蔗作は不引合となり、他作物に轉換せねばならぬ運命にあつたものである。

一九二二年米國が砂糖に輸入税を課した時に比島の砂糖は其の適用を免がれ、爾來十數年間に比島の砂糖生産高は二五三%に迄増加した。併し此期間にアメリカ本國內にも相當の糖業が發達し、又米國資本を多額に投下せるキューバの砂糖が生産過剰に悩むやうになり比島産砂糖に特惠的流

入を認めて置くことは著しく不利となつたので、此の特恵

の停止が比島の獨立承認を早めた一つの動機であつた。今や比島糖業資本は五億三千萬ペソ（約十一億三千萬圓、内比島人出資四五%）従業者は比島人約二百萬人で此の轉換

共榮圏各國砂糖産額 (單位 1000噸)

	昭和12-13	13-14	14-15	15-16
日本内地	105.2	146.8	138.8	128.8
南洋	74.5	70.3	61.5	63.0
計	1,079.9	1,744.4	1,407.7	1,204.9
比律賓	928.3	1,030.0	1,130.0	1,104.4
東印度	1,375.0	1,560.0	1,550.0	1,740.0
澳洲	3,290.0	2,500.0	2,770.0	8,120.0
南美洲	773.9	786.1	860.0	840.0
布哇	798.1	821.0	807.2	890.0
世界計(其他共)	17,260.0	17,300.0	17,420.0	16,811.8
甜菜糖				
日本(北海道)	45.4	45.3	28.1	39.4
滿洲國	11.8	21.0	...	...



は重大問題である。

### 煙草

大東亞共榮圏は煙草に恵まれた地域である、共榮圏の過去の需給状態を輸出入の差引で見ると三萬噸内外の出超である。印度と濠洲及新西蘭を含めて考へた場合には、濠洲と新西蘭は入超であるが印度の生産が大きいかから右の出超は四・五萬噸に達する。

煙草製品は異種葉を混ぜて夫々獨特の風味を出すことが必要で、世界的に有名な煙草産地でも毎年多量の葉煙草を外國から輸入する。我が共榮圏の強みは氣候風土の異なる多くの生産地を持つてゐる點である。

### 棉花

(第一表)別表は東亞共榮圏内の綿布需要量を推算したもので、一人當需要量は昭和十二、三年頃の實績によるものであり、人口数は昭和十四年前後の最近の數字を採つてある。之を第二表の産額に對比すると需給は窮乏ながらトントンの様に見えるが、實は支那綿の大部分及

現在南方圏の産額は農民自家用の綿となるので、紡績用原綿に就ては著しく不足するのである。

支那は棉花を自給し得る國であるから除外して考へると、紡績用原綿の需要約四十八萬噸に對して共榮圏内で現在自給し得るのは精々其の一割五分程度のもので、四十萬噸以上は南方圏諸地方に於ける今後の増産に俟たねばならぬのである。又印度が共榮圏に参加するとしても、其輸出餘力は存外僅少であるまいか。印度は從來原綿を輸出するが他方に多量の綿製品を輸入し、此の輸入防遏のため近年紡績事業が發展し、原綿の國內需要は急に増加しつつある。

棉花四十萬噸を得るには印度程度の粗放栽培ならば約四百萬町歩の作付面積を要し、或は朝鮮程度に栽培し得るとしても約二百萬町歩を要するが内地の米作面積が三百萬町歩であることを想起するとき非常な大事業たることが痛感される。

綿布需要量 (第一表)

地域	一人當需要 方碼	人口數 百萬	總需要量 百萬碼	棉花 千噸
日本内地	28	72.8	2,038.4	228.3
朝鮮及臺灣	13	29.5	383.5	43.1
滿洲國	9	36.9	332.1	37.2
支那	6	446.6	2,679.6	299.5
比律賓	13	16.3	211.9	23.7
佛印	6	23.6	141.6	15.8
馬來	12	14.5	174.0	19.5
馬來	11	5.3	58.3	6.5
ヒル	10	16.0	160.0	17.9
東印度	12	68.4	820.8	91.9
計	9.6	729.9	7,000.2	783.4
印度	...	...	...	10,297
米國	...	...	...	10,019
ブラジル	...	...	...	...
エジプト	...	...	...	...
ソ聯	...	...	...	...
世界産額	...	...	...	57,400.068,900.082,700.062,100.061,900.0

棉花作付面積 (第二表)  
(單位 1000 (クダール))

地域	昭和10	11	12	13	14
日本内地	208	22	221	234	252
朝鮮及臺灣	—	—	—	—	—
滿洲國	—	—	—	—	—
支那	2,152	8,454	3,954	...	...
比律賓	—	—	—	—	—
佛印	14	14	14	14	14
馬來	5	7	8	5	...
馬來	—	—	—	—	—
ヒル	207	210	228	166	147
東印度	10	14	16	8	...
計	2,596	3,926	4,441	...	...
印度	10,297	10,019	10,419	9,513	8,660
米國	...	...	...	...	...
ブラジル	...	...	...	...	...
エジプト	...	...	...	...	...
ソ聯	...	...	...	...	...
世界産額	...	...	...	...	...

綿産額 (第三表)  
(單位 1000噸)

地域	昭和10	11	12	13	14
日本内地	40.7	45.3	46.1	40.9	39.6
朝鮮及臺灣	—	—	—	—	—
滿洲國	—	—	—	—	—
支那	492.5	865.6	635.7	...	...
比律賓	—	—	—	—	—
佛印	1.1	1.3	1.2	...	...
馬來	1.3	1.4	1.9	1.2	1.8
馬來	—	—	—	—	—
ヒル	19.1	20.7	27.2	19.3	17.3
東印度	2.1	1.3	1.6	2.1	...
計	556.8	935.9	714.0	...	...
印度	1,057.7	1,131.1	1,038.2	615.3	907.2
米國	2,306.6	2,688.3	4,107.6	2,589.7	2,562.1
ブラジル	381.0	391.7	449.8	431.5	456.4
エジプト	383.5	409.2	494.6	374.7	390.5
ソ聯	530.7	778.1	854.6	840.0	880.0
世界産額	57,400.068,900.082,700.062,100.061,900.0	...	...	...	...



生 ゴ ム 産 額

(単位 1000噸)

國際ゴム生産協定制量

(単位 1000英噸)

	昭和10	11	12	13	14	昭和13	14	15	16	17
比 律 賓	0.5	0.7	0.7	0.8	...					
佛 印	29.3	41.3	45.1	57.9	69.1					
泰 馬	26.7	32.0	47.3	51.0	53.6	40.0	54.5	55.1	55.7	56.0
來 馬	383.1	369.5	509.4	365.4	383.0	602.0	632.0	642.8	648.0	651.0
ビ ル マ	5.6	9.6	11.5	10.6	...	9.3	13.5	13.8	13.8	13.8
東 印 度	299.8	313.1	453.6	324.7	378.4	540.0	613.5	639.7	645.5	650.0
北 ボ ル ネ オ	9.6	9.2	14.3	12.1	...	16.5	21.0	21.0	21.0	21.0
プ ル ネ イ	1.4	1.3	1.8	1.3	1.3					
サ ラ ワ ク	20.2	21.8	26.9	18.3	24.9	32.0	43.0	43.5	44.0	44.0
パ プ ア	1.1	1.1	1.1	1.3	1.3					
西 サ モ ア	0.0	0.0	0.1	0.1	...					
計	777.3	799.6	1,111.8	850.7	911.6	1,239.8	1,377.5	1,415.9	1,428.0	1,435.8
印 度	12.5	13.8	14.6	14.1	...	13.0	17.5	18.0	17.8	17.8
セ イ ロ ン	54.6	50.7	70.8	52.0	61.2	82.5	106.0	108.0	109.0	109.5
世 界 計	869.3	894.7	1,233.4	944.5	1,057.6					
共 榮 國 計ノ 世界計割合%	89.3	89.3	90.0	90.1	87.0					

木 材

南洋材としてよく知ら

れてゐるのは比島材及びボルネオ材だが、南方圏では比島の森林が比較的よく開發されて居り、伐採高も多い。南方圏の木材は軽い軟木が多い、しかしチーク、唐木の如く重く堅いものもある、チーク材は泰、佛印、ビルマ、ボルネオ等に産し、就中泰の産出を第一とする。林木育成の保護政策がとられてゐる。

共榮圈諸地域は森林が多く大抵の國では其の國土に對し六割乃至七割となつてゐるが、森林面積の多いことは必ずしも木林其他林産の豊富を意味しない、南方諸地域の森林は原始林で人工を施さず、従つて林相も悪く、伐採にも不便な所が多い、熱帯産軟木類が家

用材の生産及輸出入 (単位 1000石)

	昭和10	11	12	13	14
日本生産(外地共)	85,890	85,414	90,100	100,541	114,602
〃 輸入(〃)	8,190	8,792	7,918	2,470	2,714
〃 輸出(〃)	3,188	3,079	3,993	7,295	14,325
滿洲國生産	6,620	6,642	9,976	12,877	...
〃 消費	10,660	7,409	11,380	14,990	...
支 那	3,740	3,078	2,016	612	...
比 律 賓	...	...	7,233	6,643	...
〃 製材	...	1,663	2,622	3,020	...
〃 輸出	1,217	4,695	2,138	1,364	...
佛 印	4,875	...	4,380	4,720	...
〃 輸出	...	11,548	4,020	5,980	8,640
〃 (チーク)	越12,752	360	11,187	11,015	13,157
泰 輸 出	277	...	339	...	...
〃 (チーク)	...	...	...	越59,239	69,790
馬 來 輸 出	94	97	108	86	...
〃 輸 入	497	554	590	569	...
ビルマ輸出(チーク)	...	...	...	1,630	...
東印度伐採(内外計)	3,528	4,068	4,195	5,428	5,911
〃 輸 出	1,321	1,441	1,602	1,480	...
北ボルネオ丸太輸出	432	532	550	375	...
〃 梃材	53	58	89	1,027	...
漆 洲 輸 出	328	349	374	392	...
〃 輸 入	1,786	1,987	1,933	1,854	...

護 謨

具、指物などに利用されつゝあるが此等の伐木は大抵人工林によるのである。チーク材唐木類も人工林から伐採されるのであつて所謂ジャングルは林産物から云へば生産的存在である。

護謨は東亞の特産物で馬來は世界産額の約三割六分を産して世界の首位にあり、次いでそれに匹敵するのは東印度である。この兩者が世界生ゴム生産の双壁をなすもので、この外佛印、泰、ボルネオ等にも夫々可成りの産出あり、共榮圈内で約世界の九割を生産してゐる。

これらの諸地域、殊に馬來經濟の盛衰は一に護謨により左右せられるとも云はれ、かつての不況時代には強度の生産制限協定に苦んだ事もある。最近の趨勢は世界情勢の險悪化を見越して米英が生ゴムの大量買付けを行つてゐたため、その生産高は各地とも可成の増加を示してゐる。

米國は云ふ迄もなく世界最大の消費國で世界生ゴム生産高の約半數を消費し、就中その九七・三%は東亞よりの供給を仰いでゐるのであるがそれが全く杜絶した今日、之が米



國に與へる影響は極めて深刻である。

共榮圏の近年の生ゴム産額は約百萬噸であるが、事變前に於て共榮圏が必要とした量は七、八萬噸であつた。故に非常な過剰物資であるわけだが、一方戰禍の爲めの生産力減退と他方には我が需要増大の爲め且つ今後國防の完璧を期するには需要は激増するから、前述の如き需給の喰違ひはなからうが、併し過剰物資たることは當分變らない。

よつて今後の生産制限、利用方策の考究、戰後の輸出も考慮に入る可きである。さればゴムより液體燃料の採取や、或は之を硬化して金屬代用品を造ることなどが調査研究されてゐる。また我々の日常生活品にもゴム製品を努めて多く使ふやうにせねばなるまい。

### 水産

處女漁場とも謂ふべき南洋における漁業が世人關心の對象たらざるを得ないが、之は今後開發すべき場所では内地沿岸、近海並に北洋漁業にある、北洋漁業と南洋漁業は凡そ對蹠的である。前者においては魚族の種類僅少であるが集中大で巨

調査年	地 域	數 量 價 額	
		(千噸)	(千圓)
昭和14	内地	3,296	530,665
〃	朝鮮	2,136	151,098
〃	臺灣	49	25,183
〃	南洋	381	21,144
昭和11	支那	78	5,255
(推定)	支那	78	8,763
昭和14	支那	410	81,375
〃	支那	50	11,391
〃	支那	260	13,000
〃	支那	150	5,282
〃	支那	89	23,800
〃	支那	41	3,800
〃	支那	0.3	90

船による操業に適するも短漁期である。南洋漁場では魚族の種類は多種多様であるが分散してゐるから内地沿岸近海の操業方法が適する海區であり且つ周年漁撈し得る。

共榮圏の漁場を概観すれば、北洋漁場は日ソ關係が根本的に變化しない限り限界點に在る、内地の沿岸漁場は貧困化しつゝある。鮪延繩、鰹一本釣の漁場は操業水面が益々廣く益々遠くなりつゝあり。本漁業に於ては特に南洋漁場

が重要である。以上の外に捕鯨業の洋々たる前途を附け加へるならば、わが水産界の遠主近從策は將來更に強化されるだらう。南洋漁場は上述の外に高瀬貝、蝶貝の棲息に於て特異な存在である。共榮圏の漁獲高總計は世界の約三二%に當るが、南方諸地は概ね輸入國(主に暹羅)である。

### 鐵 鑛

從來我が國に鐵鋼が不足すると云はれたのは鐵鑛資源が足らぬといふ事も勿論あるが、國內製鐵設備の不足もあつた。今回大東亞圏の確立により鐵鑛資源だけは十分となつたが、製鐵設備はまだ増設せねばならぬ。

朝鮮、滿洲には可なりの鐵鑛埋藏が判明してゐるが、概ね貧鑛で特別の處理を要し、又蒙疆のものは富鑛だが輸送に不便である。從來内地の製鐵業は支那長江沿岸及馬來半島から鐵鑛の供給を受けてゐたが、近年海南島に良鑛が発見され、南岸の田獨鐵山からは既に我國へ供給されてゐる。併し之よりもスツト大きな石碌鐵山は鐵でない石ころが見付からないと云はれる程の豊富なもので露天掘が可能

共榮圏内鐵鑛埋藏量 (單位 百萬噸)

地 域	埋藏量 (百萬噸)	地 域	埋藏量 (百萬噸)
日本(内地)	13	南 支	34
〃 (朝鮮)	1,000	福 建	22
滿 洲 國	1,500	海 南 島	509
鞍 東 邊 道	1,000	比 律 賓	1,000
蒙 疆 其 他	400	ス リ ガ オ	500
蒙 龍 其 他	150	其 他	500
北 支 支	120	馬 來	200
中 支 支	30	東 印 度	2,200
湖 安 北 徽	50	セ レ ベ ス	1,000
	116	ポ ル ネ オ	1,200
	40	合 計	6,763
	20		

である、輸送設備が完成したならば、日本の需要する鐵鑛の大部分は此の山で充し得ることゝならう、

共榮圏諸地方の鐵鋼輸入總量は支那事變前大約三十一萬噸と抑へられ、圈内相互間の輸出入を差引くと約二百四十萬噸であつた、此の外に日本及滿洲で生産され國內で消費されたものが約二百六十萬噸あつたから、共榮圏の鐵鑛需

要は五百萬噸となる。此の外に鐵鋼製品及機械等の輸入があつたから、完全な自給には支那事變前に共榮圏で約一千萬噸を要したであ



らう。然るに今日に於ては我國の需要などは當時と比較にならぬほど増してゐるから、恐らく差當つての計畫としても共榮圈内年産二千萬噸位を目標にせねばなるまい。現在共榮圈内で製鐵業を持つのは日本内地、朝鮮及び滿洲國位で、支那の製鐵業などは云ふに足らぬ産額であり、其他には製鐵設備はない。併し將來南方にも製鐵業は興るべきである。

### 鹽

昭和十年内地の輸入鹽中近海鹽四一%、南洋鹽一・四%は十三年には六三%、八・六%に夫々増加した。内地輸入鹽は今や一〇〇%を共榮圏で確保せねば、曹達工業延いて全化學工業の七〇%を維持し難い。

わが工業鹽の主要給源は臺灣、滿洲、關東州及び長蘆、山東鹽であるが、佛印、泰及東印度の海鹽に屬する所は極めて大きく、淮南、海南島の開發も輕視出来ない。佛印の天日製鹽は東京、安南、交趾支那、就中安南沿岸に盛んである。臺灣の海鹽は鹽田、氣象、集散共好條件に恵まれてゐる。

塩の生産 (單位 1000噸)

	昭和11	" 12	" 13	" 14
内地	519	536	484	632
朝鮮	217	—	—	—
臺灣	176	190	210	—
關東州	413	433	—	—
滿洲	372	401	—	—
支那	4,000	4,000	—	—
長蘆	377	530	161	—
青島	239	252	161	256
淮南	131	—	—	—
海南	36	—	—	—
佛印	43	49	—	—
泰	164	180	180	—
東	133	156	—	—
印	33	55	—	—
度	107	76	90	159
度	1,731	1,878	—	—
支	40	39	—	—
那				
計	8,013	—	—	—

る。東印度も地域により海鹽を得るに甚だ適し特にスマトラなどは現在でも相當の海鹽を産し、又同島北部には岩鹽もあり、將來の開發を期待される。南洋鹽の輸出能力は差當り十萬噸といふが、我が國の必要とする多量の工業鹽は當分の内は其の大部分を北支の長蘆鹽、青島鹽に求める方針である。

### 石炭

大東亞共榮圈内の近年の石炭産額は不明であるが約九千萬噸乃至一億噸と云ふ處であらう。消費も其見當で、共榮圈内各地域間の融通はあるが、圏外からの輸入は少なく、斯る輸入はなくともやつて行ける状態である。

石炭埋藏量 (單位 百萬噸)

日本(内地)	16,691	比 律 賓	62
" (樺太)	2,500	佛 印	1,126
" (朝鮮)	400	ホ ン ゲ イ	1,000
" (臺灣)	400	馬 來	10
滿洲國	20,000	ビ ル マ	—
撫 順	950	東 印 度	200
鶴 岡	5,000	ス マ ト ラ	144
札 賚 諾 爾	3,980	ポ ル ネ オ	100
蒙 疆	45,000	ボ (舊 英)	
大 同	40,000	計	251,189
北 支	150,000	印 度	87,000
山 西	130,000	濠 洲	34,585
河 北	3,000	新 西 蘭	2,000
中 支	13,000		
四 川	9,874		
湖 南	1,764		

る。而して此の内では日本の消費が壓倒的に多いのだが我が國も滿洲國も共に不自由勝ちの状態である。今後重工業の生産設備を擴充し、又人造石油工業の如きも遂行することになれば共榮圏の石炭需要は少くとも二億噸位と見込まねばならず、従つて大規模の生産増加を必要とする状況にある。

幸に石炭の埋藏資源は滿洲國、蒙疆、北支那等に甚だ豊富である。南方圏には佛印とスマトラに相當大きな石炭資源があり、比律賓、ボルネオ、馬來半島等にも既に発見されてゐる鑛床がある。併しなほ未調査の區域も甚だ多いので、今後埋藏資源發見の可能性も多い。

南方圏は支那大陸に比べて石炭資源が貧弱で多量に石炭を消費する工業は南方では興し難いと見られてゐる。印度と濠洲が共榮圏に参加すれば、此の兩地域は多量の石炭を持つから事情もかなり變つてくるであらう。印度は埋藏量は多いが、優良炭は比較的少く、良質のものを多量に望み得ないまでも或程度の輸出は可能である。濠洲は石炭の輸出國として南西太平洋諸島一帯に供給して居たもの



で今後開發せば相當多量の輸出が可能である。

### 石油

大東亞圈内石油産額は東印度が年約八百萬噸、英領ボルネオが約百萬噸近く、ビルマも亦百萬噸内外を産し、合計大約一千萬噸である。此外に我が内地及び臺灣に多少の産出があり、支那事變前に其の産額は三十五萬噸内外であつた。北樺太の産油は事變前に於て三四十萬噸ほどで比較的少いものであり、その他支那の陝西省に出るとか、滿洲國の阜新に油田の發見が傳へられてゐるが、之等は油田が存在するといふだけの事で未だ産地とは稱し得ない。

之に對し共榮圏の消費量は近年約八百十餘萬噸と稱へられる。之は印度、濠洲、新西蘭を含まない。故に狭い範圍の共榮圏だけならば從來通りの石油産額があれば現状に於て約二割弱の過剰を生ずる。併し共榮圏の範圍を印度、布哇、濠洲まで加へると、需要量は約一千三百萬噸強となり、一方産額は上記のものに印度の二十數萬噸が加はるだけだから、約三〇%の供給不足を見るわけである。

石油産額 (單位 1000噸)

	昭和11	" 12	" 13	" 14	" 15
ジャバ	499.1	960.1	933.6	841.0	839.5
バレン	2,761.7	2,784.4	2,747.0	3,125.0	3,077.6
ジャバ	663.1	885.8	1,010.7	1,211.3	1,210.4
スマトラ	141.6	189.2	198.2	162.1	156.5
アチエ	548.3	630.6	706.9	821.1	764.3
東部ボルネ	1,028.5	1,005.8	984.7	996.7	983.9
タラカ	740.0	733.6	735.1	683.7	809.2
セラム	50.4	72.2	81.6	107.0	97.6
東印度計	6,432.7	7,251.7	7,397.8	7,948.7	7,936.0
舊英領ボルネ	685.0	789.0	910.0	939.0	926.0
ピルマ	1,067.0	1,103.0	1,061.0	1,100.0	1,140.0
計	8,184.7	9,153.7	9,368.8	9,987.7	10,005.0
印度	278.0	304.0	351.0	328.0	321.4
イラン	8,996.9	11,158.4	11,188.7	11,164.5	11,227.4
イラク	4,273.3	4,371.9	4,629.1	4,398.7	3,675.0
バールン	663.5	1,108.9	1,185.4	1,084.0	1,013.5
アラビ	2.8	8.5	67.0	536.0	766.4

併し此需要量の中には軍需用は一部分含まれてゐるだけ

であるから共榮圏の需要量は何うしても二千萬噸位と見込まねば不充分と考へられる。二千萬噸といつても世界産額に比べれば七%位の量で、之で一億九千萬噸の産額をもつ米國に對抗して行かねばならぬ現状にある、米國の産油能力は三億噸位はあるとのことである。

勿論東亞圏の産油も今後増加し得やうが、更らに他地域に於ける石油資源にも着目せざるを得ないのである。

東印度の油田状況は政府の發表によると思つたほど破壊されて居らず、復舊作業は順調に進んでゐる様子である。

東印度の石油埋藏量は四億噸とも、一億數千萬噸とも云はれるが、之等は總て既知の油田に就ての推定で、外に未發見の油田が多く存すると想像されるから埋藏量の事は氣に掛ける必要はない。皇軍占領前途は石油の質は餘り良くないといふ一般に云はれてゐるが、實は日本向けには故意に劣等品丈けを送つてゐるので、實際は航空機用として極めて優

良なものも生産されてゐた事が明かとなつた。

### 錫

錫は大東亞圏に於て世界産額の約七割を産し馬來や東印度の錫鑛業が戦前の状態を繼續するに於ては非常な供給過剰となる、馬來や東印度の錫は其七割を英米に供給してゐたので、此の供給杜絶は米英の軍需工業にとり相當の痛手である。

圈内諸國に於ける錫の消費は總計一萬噸見當と思はれるから産額は十數倍あるわけである。錫の最大用途はブリキ鑛金で、ブリキの使用は罐詰が最大のものであるが、東亞圏としては鐵板の節約を必要とする際であるから、錫はなるべく器物其他に他金屬の代用として使ふやうに工夫すべきであらう。



錫産額及輸出 (単位 吨)

		昭和11	〃 12	〃 13	〃 14	〃 15
鑛石産額中金屬量	日本	2,350	2,300	...	...	...
	支那	10,600	11,300	11,800	11,000	6,500
	馬來	67,826	78,784	43,941	56,848	85,384
	東印度	31,684	39,779	25,536	28,200	43,886
	佛印計	12,800	16,000	14,900	17,300	17,416
世界産額	126,591	149,766	...	...	...	
製錬高	日本	1,870	1,000	...	...	...
	支那	10,600	11,300	11,400	10,600	6,400
	馬來	85,948	96,903	64,800	82,900	128,976
	東印度	13,060	13,977	7,300	14,700	...
	計	111,478	124,080	...	...	...
輸出高	馬來	84,831	94,601	62,169	83,407	...
	東印度	11,402	13,061	7,330	14,200	22,706
	計	96,233	106,662	69,499	97,607	...

マンガン鑛

大東亞の範圍内でマンガン鑛は十七、八萬噸の産額である。英領印度はマンガンの世界的産地でソ聯に次ぐ世界第二位を占め、百萬噸以上を産する。歐洲や北米にはマンガン鑛は殆ど産しないのであるから、大東亞圏は此の點に於て

マンガン鑛産額 (単位 吨)

品位	昭和11	〃 12	〃 13	〃 14
日本	49~51	67,753	...	...
支那(輸出)	45~46	23,794	51,446	1,247
比律賓(輸出)	45~50	2,549	25,218	58,143
佛印	...	3,430	5,287	2,214
馬來	30	37,366	33,319	37,483
東印度	50~55	8,619	11,083	9,687
計		143,511	...	...
印度	47~52	829,498	1,068,472	983,464
葡領印度	42~50	2,662	4,077	9,478
濠洲		73	1,161	603

甚だ恵まれてゐると云ひ得る。併し大東亞圏に於ける製鑛業が今後整備されれば、マンガン鑛の五十萬噸位は直ぐに要るやうになると思ふから、印度が共榮圏に加はらないと、他の地方だけでは相當不足するわけである。マンガン鑛は總ての製鐵製鋼に不可欠の原料である。わが國の金屬マンガン鑛需要量は事變前約二十二萬噸であつた。支那のマンガン鑛は廣東、廣西、江西、湖南等に産し、將來和平の時が來れば數萬噸の産出は可能である。比律賓のマンガン鑛は昭和十年から採掘が始まり、其の後急増して今では五萬噸以上の産額になつてゐる。印度のマンガン鑛はベンガル地方が主産地だが、一部分葡領マルマゴオ港を經由して輸出する低品位の鑛石もある。

タンゲステン鑛

タンゲステン鑛は支那が世界第一位の産出國で、ビルマが第二位である。大東亞圏の産額は世界産額の六割内外を占めるから、自給はもとより、甚だ過剰となるわけであるが、併し支那のタンゲステン鑛産地は江西、湖南、廣東の三省で大部分蔣政權下にあり、

支那タンゲステン鑛輸出先

(単位 吨)

	昭和13	〃 14	〃 15	〃 15
英國	75	—	—	千元
米國	75	—	—	—
獨逸	725	—	—	—
香港	11,335	2,827	1,293	6,657
澳門	27	18	—	—
廣州	—	72	40	202
佛印	—	7,748	1,370	5,614
ビルマ	—	—	120	895
其他	121	24	51	284
計	12,358	10,689	2,874	13,616

タンゲステン鑛産額 (60% W03) (単位 吨)

	昭和10	〃 11	〃 12	〃 13	〃 14
日本(内地)	109	56	...	...	...
〃 (朝鮮)	949	1,850	...	...	...
支那(輸出)	7,998	7,638	17,895	13,387	11,580
佛印	417	503	648	545	...
泰	82	82	221	251	398
馬來	2,035	2,037	1,234	1,000	430
ビルマ	4,527	5,382	5,924	6,334	...
東印度	1	1	—	—	—
計	16,118	17,548	...	...	...
英領印度	—	—	15	12	...
濠洲	491	426	856	1,185	979
新西蘭	61	49	28	54	...



ら、左程著しい不足ではない。

支那のタンダステン鑛輸出は重慶政權が外國貨を獲得する重要な手段で、支那事變の最初の間は香港經由で英米に供給し、香港が封鎖されると佛印經由の手段をとり、之がいけなくなるとビルマルート經由の方法によつたことがわかる、又南支の佛領廣州灣經由の方法も行はれた。

ビルマの産額は大部分クヅオイ縣に産出するもので既に皇軍の占領下にある。マライ、佛印のタンダステンは錫と共に伴して産する。

タンダステン鑛は特殊鋼製造用として不可欠の資材たることは云ふまでもない。

### 其他の重要物資

—(小麥、大麥)— 内地、朝鮮、滿洲、支那共に生産地であるが、いづれも需要量を充すには足りない。最近の狀勢では共榮圈の小麥不足額は百二、三十萬噸であるが、此の程度の不足は北支に於て増産に努めるならば十分補給

し得る。印度と滿洲が圈内に供給することになれば多少過剩となる。大麥も南方圏には出來ないが、支那の増産は可能で共榮圈全體としては十分自給し得る。

—(五蜀黍)— 共榮圈全土に亘つて産する。南方ではジャワ及びマヅラに略ぼ滿洲國に匹敵する産額がある。比島と佛印もよく似た産額であるが佛印の輸出力は共榮圈内で壓倒的に大きい、其他東印度に大量を産するが其他の消費も大きいから輸出は生産に比して少ない。

—(茶)— 茶も東亞の特産物で、支那、東印度、日本、佛印、印度及セイロンが其主産地である。東亞の茶産額は世界の九八%を占め、東亞以外ではアフリカ、ソ聯に僅少を産するのみである。これらの過半は歐米諸國の飲用に供せられ、その約六割は英領印度及セイロンより輸出されて居た。英國は此等の主産地を領有し、東印度の輸出貿易を抑へてゐたが、今回の戦争により此地位も亦失はれて了つた。

—(マニラ麻)— マニラ麻はアバカとも呼ばれ比律

賓の特産物である。スマトラ島にも多少の産額がある。比島のマニラ麻が世界的商品となつたのは、タバコを中心とする日本人の栽培事業が盛大となつたからで三十年來の邦人努力の結晶である。

日本は最も多くを輸入し一部を麻真田として輸出する。英米は双方共輸入は相當多く主として船舶用繩索原料に供せられてゐた。マニラ麻の輸入が杜絶した英米はブラジルから代用纖維の供給を仰るゐるが、未だ完全な供給は出來てゐない。

—(キナ)— マラリヤの特効薬キニーネの原料であるが、現在ではチャワの産額が世界の九五%内外を占め

て東印度の獨占品の如き觀がある。マラリヤ防遏は世界の諸地が必要があり、特に戦時には必要が増大する。米國は早くより、東亞のキナを買溜めに努力してゐた。

—(コブラ)— 古々椰子の果仁を乾燥したもので油脂をとる原料である。南方圏の産額は世界の九六%を占め歐米は全部此地方から供給を仰いでゐた、されば自給の立場から云へば過剩農産物であるが椰子樹は住民の貴重な財産であり、成育に年月を要するので、利用の開拓に努むべきである、椰子油は石鹼に最も適するが食用油化するときには共榮圈で多大の需要がある。

## 南方華僑の概要

### 華僑

華は「中華」のこと、僑は「僑居」などと

云ふ場合の僑で「假すまひ」のこと、即ち華僑とは在外支



那人の總稱である。華僑といへば直ぐ南洋を聯想するほど大東亞圏の南方地域には華僑が多い。即ち總數約八百萬人中約七百六十萬人(九四%)は南方圏に住むのである。就中タイ國に最も多いが、同國の華僑は其歴史も古く、タイ國人に成り切つてゐる者も甚だ多い。タイ政府の統計では華僑數約四十五萬人となつてゐるが、タイ國內で生れた支那人(華僑)はタイ人で、法律上は華僑と見做してゐないからで血統上實際華僑と見る可き者は約二百五十萬人居る。最も財力に富み南洋華僑を牛耳つたのは馬來の華僑で、移住も新らしく、支那人たる意識も強く、馬來總人口の四三%を占め特にシンガポールでは七八%を占めてゐた。即ち人種的から見ると戦前の馬來は華僑の馬來であると稱しても過言ではなかつた。

南洋地方の商業に於ては華僑は支配的地位にあり、又各種工業を營むものも多かつた。大資本經營は概して歐米人の掌中にあつたが、華僑は中小商工業に於ては絶大の勢力を持つてゐた。華僑の本國への送金は毎年巨額に達し、支那の國際決濟上最重要の項目であつた。

支那人が南洋に移住を始めたのは一千年前からと云はれるが、大々的に進出したのは十六世紀末、和蘭東印度商會が組織され、支那人の移民を狩り出した頃から勢力を扶植し、當時既に和蘭移民を凌駕して素晴らしい發展性をみせてゐた。

この華僑勢力の原因は何であるか、支那人特有の勞働力の強さと、南洋原住民が非文明的で、怠惰な民であることから、殖民地本國人の使役に適せない。其間にあつて文化的華僑がよることで、使用されるに至つた點と、何んな仕事にも耐え、しかも土人に同化しやすき點が、歐洲人と土人との仲介に立つ仲介的職業が非常に華僑の伸展をなしたものである。事實華僑なくして南洋の商的經營は勿論重要資源の開發は全く不可能であるとされ、南洋で絶對的勢力を占めてゐるのは實際問題として實に華僑であるのである。

### 新客と峇々

南洋華僑の内、支那本土で生れたもの

### 華僑の問題

一體支那人には祖國愛とか愛國心とかは藥にしたくともないのだ等とけなすものがあるが、却々そうでない。南洋華僑は非常に祖國觀念に富み、國家的意識が強いのである。だから華僑問題を大東亞共榮圏の建設といふ諸點から考察するとき、彼等華僑の存在動向たるやまつたくゆるがせに出来ない。

南洋方面への日本同胞の海外發展と比較して考へるとき何よりも先づ第一番に解決せなければならぬのがこの華僑工作の問題であらう。

### 華僑の勢力

南洋を制服する者は世界の王者であると云はれてゐるが、南洋熱帶圏にある唯一の繁榮地である、これらの島々に於て如何なる民族が一番活躍してゐるか、それは英人でもなければ和蘭人でもなく、まして佛國人でもない。土着民族でもない。即ち、華僑そのものである。

のを新客(シンケ)と呼び、南洋僑民中に生れた所謂二世を峇々(ババ)と稱してゐる。新客は其數約三百六十萬人前後といはれ、その殆どが廣東並に福建人であることは周知の通りである、而して新客の多くは海峽殖民地、舊英領馬來泰國、佛印に僑居してゐるといはれてゐる。

峇々の出身地はこれ亦廣東、福建省を郷土とするものが大多數であるが、これは數代に亘つて居留地先きに生れたもので、支那語を完全に話すものは稀れで、主として馬來語、英語及び土民語を日常使用してゐる。又峇々は血統上から行くと純粹な支那人の血を持つてゐるものは少く、土着華僑の多くは土人婦人と婚姻してゐるから、いはゞ混血兒が多い。又新客が比較的無資産のものが多いのに対して峇々は出生以來近代歐米の文明生活に浸り、また文化生活を體驗してゐるので教養もあり資産にも富むんでゐるのが多いのである、之等の點から、南洋華僑は峇々を中核として勢力を保有してゐるものと見てよいのである。



## 南方共榮圈各國の素描

比律賓、佛領印度支那、泰、馬來、ビルマ、東印度

島と、第二位のミンダオ島の兩島とで全面積の七〇%を占めてゐる。

人口は千六百萬、その内、在留外人は十六萬、華僑十二萬で日本人は三萬足らずであつた、一方籽當り人口密度五五人で南

### 比律賓

比律賓群島は北緯四度四十分から三十一度十分、東經百十六度四十分から百二十六度三十四分の間に介在してあり南北二千七百籽、東西四百七十籽の長方形の海域にある、大小七千八十三の夥しい島の群である。臺灣の南端から僅か百六十籽で群島の一部に接觸する、全群島の面積合せて二十九萬七千方籽（北海道を除いた内地面積）であるが、其内一千方籽（佐渡と壹岐）以上の島は僅か十一島ある丈けで、最大のルソン島すら九州より小さい。名の付いた島は二千四百餘で、他の四千六百餘は無名島である。ルソン

方圏他地方に比して割合に多い方である。

西曆一五二一年西班牙探検船を率ひた、フェルナンド・マゼラン（トルコ人）が始めて比群島のセブ島に上陸したが、スペインが領有して初代總督を設けたのは約五十年後の一五六九年で、それから一八九六年まで二百一十七年間比島は西班牙領であつた。

一八九八年（明治三十一年）四月米西戦争が初まり、獨立黨のアギナルド將軍も米軍に加はつて奮戦したが翌年八月休戦、十二月パリで講和條約が結ばれ、二千萬弗で比島群島は西領から米領となり、米がアギナルド將軍らに與へた獨立承認の約束は一片の反古と化した。

昭和十七年一月二日、大東亞戦争勃發してから一ヶ月を経ぬ内に首都マニラ市廳舎屋上高く日章旗翻つて米領四十三年の短かい歴史は閉され、比島は大東亞共榮圈の一分子として更生し、多年の宿望たる眞の獨立を與へらるゝ前途の光明を見出したのである。

**住民** 黑人系のネグリティ族が比島の先住者であつたが、馬來系のイゴロット族に追はれ、イゴロット族は更に新來のタガログ族や其他の馬來人の侵入に會ひ、是亦山中に退却した、其後回教徒馬來人、今のモロー族も南より渡來し北上したがスペインに追はれて南方に住む様になり現在に至つてゐる。

現在のフィリツピン人と稱するのはこの種族及歐人との混血であつて、區別すればタガログ、ビサヤ、イロカノ、ピコール、バンバンガ、バンガシナの六種族となり全人口の八分の七を占めてゐる。人口數からいへばビサヤ族が斷然多く他種族を凌駕してゐるが、政治的、社會的勢力から見ればタガログとビサヤとは相伯仲してゐる、夫はタガログ族がマニラを中心として南ルソン方面の重要地域を占

めてゐるからである。獨立準備時代の初代大統領ケン及び比律賓最初の共和國大統領であつたアギナルド將軍はタガログで、かつての副大統領オスマニヤはビサヤ族であり舊教の獨立教會派創立者グンゴリオ・アグリツパイ師はイロカノ族であつた。

西班牙入渡來以後之等の種族と歐人との間に混血が生じ此の混血は又混血を生むといふ順序で現代のフィリツピン人が出來てゐる。それであるから現代の比島人は三百餘年に涉り、黑白兩族の姿を繼承して居り、文化と野蕃の兩極が今尙ほ出現してゐるが、彼等混血人は自ら「メステツ」（混血人）と稱して自身に、白人種系の血の存在を誇りとしてゐるのである。

比島人は皆舊教徒に屬するといつてもよい程であるが、勿論之はスペイン領となつて以來、其布教に努めた結果である。米領になつてから新教の布教が初められたが年若く微々たるものであつた。回教徒は新教徒よりも多いが五十萬に達しない、其他は原始的の偶像崇拜徒で彼等の教化は仲々困難である。米領になつてから政府は本國の法律に準



じて支那人の比島入國を禁止してゐるから、他の南方諸地域に比し比の華僑の数は僅少で一萬五千人内外である。

西班牙領土時代には舊教の僧侶が布教と共に學校の經營をなして教育に努めたが徹底してゐなかつた。米領になつてから宗教と教育とを切り放して公立學校を擴充してから一段の進歩を示した。現在では初等程度六千、中等一千二百、専門百十の公立學校を有し、總數百二十餘萬の學生がある、其の外に比律賓大學、聖トーマス大學などある。併し小學程度就學兒童数は適齡兒童中の約三分の一強の程度に過ぎないから一般の教育普及程度が推察出来る。

住民の重要問題は彼等の言語である。陸地は山深く、無数の島々に住む住民は別天地を爲して生活し、種族を異にするから言語上連絡全く絶え各村固有の言葉を有し、其種類八十種に及ぶといふ西領時代にはスペイン語を混用してゐたが、米領になつて英語を普及せしめたので現在は英語が全島に通じる。獨立準備時代には國語統一問題が議せられたが、現在ではタカログ語を採用して毎日新聞系統の經營でタカログ語の新聞さへ發刊されてゐる。

れてゐた、石炭は質不良で年に大量を輸入してゐる。

比島の工業は農業に關するもので、製糖業が最重要である、機械的製糖は一九一〇年から初まり、現在まで約四十數工場があつた。マニラ麻(アバカ)の耕作は始まつて百年以上になるが邦人がダバオを中心として耕作を初めて以來大に發展した、該地に在る邦人會社數四十有餘、投下資本千六百萬圓と推定されてゐる、産額の大半は邦人の手にかつてゐる。其他工業としては古々椰子油、有名なマニラ煙草、刺繡業、網、貝釦、帽子等が相當の量製造せられてゐる。

比律賓の輸出品中、その大宗をなすものは砂糖で、同國輸出の約三割を占めてゐる。之は所謂圈内餘剩糖問題の對象としてよく引合に出されることは周知の如くである。アメリカ本國への特惠關稅あることを立前として育成されてきた輸出品であるから問題となる。マニラ麻は比島の特産で優良な繩索原料である、大東亞圏にはコブラの産地は多いが比律賓は其産額に於て第一、従つて世界第一である。

輸入は鐵鋼製品、綿製品、石油及食料品(小麥粉、肉類バター等)が主たるものであるが、特に食料を輸入せねば

三百年前には「野蠻」の程度を脱しなかつた比島人は西領時代の積め込み主義的舊教の影響と、安價なアメリカ式皮膚文化を注入せられて育つて來たのが現在の比島人がもつ性格である、東洋人にして東洋らしからぬところを多分に保つてゐる。

**産業と貿易** 比律賓は農業國である、即ち比島輸出の九割は農産物である。耕地面積は全土の五〇%に達してゐるが主たる産物は米、甘蔗、古々椰子、マニラ麻、アバカ玉蜀黍、煙草等で其他にゴム、カボック、コーヒ等も生産される。又比島の林業は世界的で國內消費も大量であるが輸出も旺盛である。比島の材木中尤も廣く知られてゐるのはヤカル、アビトン、ラワンの三種であるが、ラワンは諸材中の七割を占めてゐる。

水産は未だ發達の道程中にある、漁獲は年々増加してゐるも、尙ほ大量の水産食料を日本等から輸入してゐる。

比島の礦産資源には金、鐵礦、クローム、マンガン、錫石炭等がある。金の生産額は僅少である、鐵礦は埋藏量豊富であり品質も相當良好である、之は大部分日本に向けら

比律賓の品目別輸出入額 (單位千 ペソ)

	昭和11	〃 12	〃 13	〃 14	〃 15	
輸 出	糖	123,784	115,394	100,044	99,347	92,073
	糖 粉	30,000	31,969	24,512	26,802	18,803
	麻 油	34,177	43,279	20,318	23,745	25,396
	椰子 油	27,578	40,927	21,411	17,843	19,724
	草 品	10,025	8,630	8,895	11,963	9,480
	刺 繡 品	8,549	7,378	10,216	10,714	9,177
輸 入	製 品	8,794	12,693	7,633	8,837	7,382
	製 品	32,032	38,681	43,792	41,133	44,348
	製 品	30,535	34,908	45,812	38,773	33,796
	製 品	14,657	15,005	16,085	16,389	24,623
	製 品	7,131	7,340	12,867	13,945	14,756
	製 品	6,443	7,621	10,378	9,069	13,008
	11,024	10,082	11,979	11,048	12,009	
	7,901	8,205	10,263	8,312	9,692	



ならぬことになつてゐるのは他の南方圏地方と趣を異にし  
植民地経済としては畸形的である。

貿易相手國は輸出入とも米國が壓倒的多く、全く米國植  
民地たる姿を現はしてゐる、特に近年は米國からの輸入が  
著しく殖えた、之は戦争により歐洲よりの輸入が激減した  
反映である。

米國を除けば日本は最大の相手國であるが、近年は在比  
華僑の反日のため日本品の輸入は減じてゐた、その反面上  
海よりの輸入が僅少ながら増してゐた。一般に比律賓は從  
來から東亞共榮圈内貿易關係が割合に薄かつたが、之は米  
國が故意にさうさせてゐたので、今後は東亞圏の一環とし  
て更生するのであるから其貿易關係も變化しやう。

### 佛領印度支那

佛領印度支那は亞細亞の東南、印度支那半島の東部を占  
め、北緯八度三〇分より二三度二〇分、東經一〇〇度より  
一〇九度三〇分の間にある、南北一、六二〇浬、東西七六

〇浬で其總面積六十二萬七千四百方浬(臺灣を除いた日本  
全土の面積)人口は二千三百五十萬人、密度一方浬當り三  
十二人で滿洲の三十三人より尙ほ稀薄である。

昭和十六年三月、我政府の斡旋により、佛印と隣國泰と  
の間についた國境紛争が解決され、約十一萬三千方浬(朝  
鮮の半分程)の佛領を泰に割譲した、昔は安南、ラオス、  
カムボチャ等の王國であつたが、馬來人の來襲、三國間の  
争亂、外敵の侵入等相次いで起り、十六世紀末に西班牙宣  
教師が初めて安南に來着してより佛、和、英、獨も相次い  
で來るやうになり複雑な經路をたどつた擧句、順次に佛蘭  
西の掌中に歸してしまつたのが一八九三年のこと、此年ラ  
オスが遂に佛國の保護國となつたのを以て完了する。

佛印はまた日本とも昔から關係のあつたところで御朱印  
船時代には日本人の渡航者も多く、一六〇五年には安南フ  
エーホ及びツランには日本町が出來てゐたことであ  
る。

### 住民

佛印の住民は安南、カムボチャ(クメール族)、  
ラオス(タイ族)、ギョー、カメン、苗、モイ(インドネシ

比律賓の相手國別貿易額 (單位 千ペソ)

	輸 出			輸 入		
	昭和13	" 14	" 15	昭和13	" 14	" 15
米	180,892	186,126	258,354	181,556	167,553	210,416
日	15,352	15,775	...	25,825	15,405	...
英	6,017	6,645	7,206	5,433	5,961	3,758
支	1,905	2,029	3,683	6,151	5,288	6,201
香	1,842	1,718	3,704	1,613	1,793	2,028
東	991	863	1,168	5,842	5,955	8,113
印	1,336	1,630	562	4,689	4,516	3,316
添	928	834	785	4,700	4,005	3,605
加	586	769	1,270	2,937	2,451	3,163
和	5,082	6,520	43	5,834	5,908	2,557
白	2,163	821	146	2,543	2,966	841
佛	3,184	3,526	3,117	2,105	1,573	574
西	511	2,109	3,000	161	170	415
獨	2,588	1,983	...	8,309	8,576	154

ア系)等の種族がある、其の内安南人は總人口の七〇%を  
占めて居り、被統治民族の内でも大なる團體を形成して  
ゐる、彼等は産業上重要地域に在住して主要の地位を占め  
て居り、文化の程度も他種族よりは高い、人種的にはモン  
ゴリア系であつて、支那人との混合も極めて濃厚である。  
カムボチャ人はクメール族で印度軍と原住民との混血族で  
あつて昔は現在の佛印、泰地方に勢力を有つてゐたが、不  
斷の争鬭に疲弊して退化した種族となつたことである  
現在のカムボチャ人の數は二百九十萬と算せられる、其他  
支那人四十三萬、佛人四萬一千等である。

佛印には各種の宗教が存在してゐるが、二千餘年に涉る  
隣國支那の文化が多分に影響して、實力を以つてゐる安南  
人は殆ど支那人に近く、儒教、佛教、道教が並び行はれて  
ゐる。然し一般的に云へば安南人の宗教生活の基礎は祖先  
崇拜、靈魂崇拜等にあるといふことが出来る。カムボチャ  
人は婆羅門教と佛教が行はれてゐる、ラオス人も同様であ  
る。其外、カトリック教が信徒百二十餘萬を有し各地に活  
動して居り、社會教育、衛生等に於ては政府以上の勢力を



持つてゐる。

昔の教育は寺院教育であつたが、佛領となつて歐式教育が實施されたが住民は概して懶惰で進んで教育を受けやうとする者少なく今日に於ても近代的教養を有する者は極一部の青年に止まつて居り一般原住民は殆ど教育の恩恵に浴してゐない。併し政府の努力に依つて各種の學校が設けられ、教育機關の體形も整備され、年々發達しつつある、現在の公私立小學校數九千五百校以上、生徒數四十五萬を有して居る。

其他中等學校、實業學校、各科學も設けられてゐる。

### 産業と貿易

佛領印度支那は純農業國で住民の九〇%は農業に従事し、其内でも米が最も重要作物である、佛印の農業は傳統的土人農業と歐人農業とに大別されるが、一般に米、煙草、棉、桑等は土人農業作物でゴム、コーヒー茶等は歐人農業作物である。

土人農作の代表たる米の生産及輸出は佛印に於ける百般の經濟的活動の基準をなしてゐると云へるのである、即ち農産物の輸出額は總輸出の約七〇%を占めて居るが、殊に

家具用其他各種の産業用木材を産する、外竹類、籐等も生産せられる。

佛國が此地に注目したのは印度支那の地下資源、殊に無煙炭は其品の質極めて優良であり、埋藏量も莫大であることであつた。一般に鴻基炭として知られてゐるもので、鑛區はアロン灣沿岸のドンチユウにある。採掘は最も簡単な露天掘か又は地下鑛であつても地表に近く層も厚い、此無煙炭は煤煙も出す殘溜物も残さない。無煙炭の外に瀝青炭もあつたが衰微してゐる。其他の鑛物には錫、亞鉛、鉛、タングステン、金、鐵、滿俺、アンチモニ、燐酸鹽、硅砂、硫酸バリウム、石棉、寶石等の産出はあるが餘り發展してゐない。

主要工業は西貢市を中心として蝟集されてゐるが精米、醸造、製油、製糖、護謨加工などが重なるものである、安南には製材、製糖の外絹布の製造がある。其他レース、籠細工、

佛印の品目別及相手國別輸出入額 (單位 百萬法)

	輸 出			輸 入		
	昭和12	" 13	" 14	昭和12	" 13	" 14
米	1,093.8	1,019.9	1,395.9	—	—	—
護 玉 石	465.6	520.7	995.7	—	—	—
緞 綉 織 物	466.6	511.4	344.8	—	—	—
炭 物 品	88.7	121.9	151.9	—	—	—
水 産 物	75.5	81.5	86.6	—	—	—
金 屬 製 品	—	—	—	165.8	227.0	287.2
綿 織 物	—	—	—	191.4	226.3	277.9
其 他 織 物	—	—	—	136.4	163.8	168.8
車 輻 類	—	—	—	127.7	168.8	225.3
金 屬 類	—	—	—	137.7	192.2	219.9
石 油 類	—	—	—	96.3	122.3	154.0
佛 國	1,195.6	1,350.3	1,126.8	835.6	1,017.9	1,333.7
香 港	294.8	274.2	308.2	135.4	143.4	166.5
支 那	139.9	75.7	171.0	114.5	143.0	106.3
南 港	195.9	277.2	357.8	58.0	57.8	100.5
米 國	180.1	249.3	418.2	52.0	97.9	97.4
日 本	108.6	87.6	166.9	48.3	55.5	40.1
東 印 度	12.8	28.2	37.7	68.6	84.6	104.5
英 國	0.4	0.5	26.2	4.4	5.5	12.0
	3.5	5.9	13.1	3.3	6.2	9.7

米は住民の生活必需品たるのみならず輸出農産物の大部分を占め、従つて其の價格の高低は之に依存する民衆の購買力に直接影響を及ぼすことが頗ぶる多大である。印度支那米は東京米と西貢米とに大別されるが、質も量も西貢米の方が遙かに上位にある。

一九四〇年の米の産額六百八十三萬九千噸の内輸出約百七十萬噸である。護謨は佛領となつてから初まり重要視されるに至つたのは一九〇七年以後のことであるが馬來、チヤワ等の生産と競争の立場にあるが佛印政府は難局に際しては種々の保護を與へて之を保持することに努めてゐる。技術上佛印の土壤がゴム樹に適してゐること、病害がないこと等の好條件に恵まれてゐる、年産約六萬噸以上といはれる。

其他佛印に於て生産する農産物は煙草、棉花、甘蔗、珈琲、茶、玉蜀黍、コブラ、胡椒、肉桂、白豆蔻、大茴香、罌粟、漆等である。又安南地方には養蠶も盛んに行はれてゐる。

木材に於ては建築用、造船用のチークを初め、指物用、



籐細工、漆器、織物、筵、唐木細工等の家庭工業が各地に行はれてゐる。

この佛印に對しフランス政府は全然鎖國主義をとり、領内に外國勢力の侵入するを極度におそれ、土人の利益を無視して外國資本及製品をあくまで排斥する政策をとつて來た、爲に産業開發は他に比較して一般に遅れてゐるのである。

輸出入とも佛本國相手の額は壓倒的に多いが、他國との貿易は高率の關稅障壁により極度に制限されて居たため甚だ少なかつた。我國などは再三交渉を行つたのであつたが貿易關係は一向に進展しなかつた、しかしそれだけに英米との貿易關係も從來より極めて薄く、對佛本國以外の貿易は大體に於て東亞圈諸地方を相手とするものであつた。

佛領印度支那の貿易は從來から輸出超過を常態としてゐたが、これは佛國資本の利益回收、本國市場で募集された公債の利拂及償却、佛人官吏の本國送金、本國政府の強制的な割當金など年々莫大の金額が本國へ流れ、又在留華僑の支那への送金額も相當額に達し、之等の關係から貿易は

出超とならざるを得なかつたのである。従つて原住民の生活は本國資本の搾取に遭つて甚だ低劣で轉々荒涼の思ひに

迫られる、彼等が如何に搾取されて居たかは、佛印に對する本國資本四十億—七十億フランに對し年に約十二億五千萬フランが事業益金として本國に還流されて居り、年々本國政府に納入する額も佛印財政の一割乃至一割五分に達してゐる事實を見ても判るのである。

輸出の大宗は米で、同國輸出の約四割を占め、之に次ぐものは護謨(一八%)で其他のものは金額がズツト少くなるが玉蜀黍、石炭、水産物、胡椒、茶等が主なものである。

輸入品は植民地の通有性として工業製品の全般に亘つて居り特に綿織物其他の衣料、金屬製品、車輛類、石油類等が主なものである。此等の工業製品は殆ど全部佛本國より供給され、我が國などは極く一小部分に割込み得たに過ぎなかつた。たゞ石油のみは東印度から相當量が這入つてゐた。併し、斯のやうに全く本國依存であつた貿易も、今では本國との交通が國難のため杜絶し、殊に大東亞戰以來其の貿易は全然對日依存に轉向してゐる。其後我が國との經

濟協定が成立し、日本向け輸出品としては米、玉蜀黍等の食糧を主とする三十六品目、日本よりは二百四十種目を輸入することに決定された。

## 泰 國

元のシャム國で一九三九年六月二十四日改名した、印度支那半島の中部にあり、南北一千六百四十軒、東西最長部七七〇軒、最狹部一五軒といふ、杓子の様な地域である、其面積五千一萬八千方軒で我が内地と朝鮮の半分以上を加へた程度の地域である。日本とは特別の間柄にあることは山田長政の昔から、昭和八年の滿洲國承認、同十五年の日泰和親條約、十六年の泰佛印調停、日泰攻守同盟、十七年の英磅爲替本位廢止等、軍事的、經濟的、文化的に密接不離の新關係にある。

人口は總數約一千五百七十萬人でタイ族、ビルマ族、安南族、ネグリート族等十數族がある、歐洲人約十萬、支那人は約八十五萬人といはれるが支那側では華僑數二百五十

萬人と稱してゐる、之は泰で生れた支那人(華僑)は法律上タイ人と定められてゐるが、血統上は支那人であるところから現はれた取扱ひの上の相違からである。此の外に支那人と泰人との混血も夥しく、現在彼等は、泰の産業經濟の實力を握つて居り抜く可からざる勢力を有つてゐる。

**住民** 泰の住民は其教育程度甚だ低く、文字を讀み得るもの三二%、讀み得ぬもの六八%の割合であつたが、現今では初等教育は必修となり教育の普及に大わらはであるから今後の發展は期待し得る、從來の教育は佛教僧侶の掌中にあつて我國に於ける寺小屋式のもので、寺院の餘暇に讀み書き、算術、倫理などを教授したに過ぎなかつた。佛教が國教であるから、國民の九五%は佛教徒であり、其信仰も頗る篤く、男子は一生に一度は必ず出家しなければ信用がないといふ風習がある。佛教の影響が斯く絶大である爲め國民は慈悲博愛の念に富み、相互相助けることを誇りとし、性質温順、親切、禮儀を尊む等の美點があるが、物に厭き易く、多少怠惰で蓄財觀念乏しきこと、保守的で階級觀念が強い事などの通有的缺點をも有してゐる。



泰國の過去は人種的統一に缺けてゐた爲め内亂の時代が多かつた。従つて先進國の植民的侵略を受け、主として英佛の政治的、經濟的支配を受けてゐたが、最近に至つて泰族の民族運動も組織的且つ強力となり、東洋民族の自覺自信をもつに至り泰國の復興に専ら専心努力をなしつつある。

**産業と貿易** 泰の産業は貿易、金融、交通、工業等に對する英米の勢力を除くと殆ど華僑の獨占となつて居り、地理的、天候的に農業が中心で次いで林業、鑛業等である。

主要農産物は米、煙草、玉蜀黍、ゴム、棉花、胡椒、大豆、胡麻等で米はメナム河流域たる中部地帯で其の作付面積は全農業の面積の九〇%を占め居り、莫大な輸出餘力を有し、昭和十四年度の輸出は百八十二萬噸に達し、同國輸出品の首位を占めて、ビルマに次ぐ世界第二の米の輸出國である。

煙草と玉蜀黍とは國內需要を満たすに過ぎない。ゴムは最近の發達で昭和十四年には約五萬四千五百噸に

泰の鑛産物としては錫が第一で、馬來、東印度及びボリビアに次ぐ世界第四の産出國である。其他にタンダステンアンチモニー、鉛、金、銀、鐵、銅、石炭、マンガン等がある。

工業は一般に幼稚で精米、製材が中心である。其他製氷、マツチ、製油、製糖、食料品、織布、染色、煙草等の工場はあるが、いずれも小規模のもので、割合大規模のものは外國資本による製材と鑛業關係の工場である。最近國產愛用政策によつて製紙、陶磁器工業等が發展して来た。

泰の貿易は年々輸出超過を續けてゐるが、反面に於ては在泰華僑の支那への送金、英國の投資利益の回收等があつたことを考慮すべきである。又その出超額は最近に於ては減少の傾向であつた。貿易を支配してゐるものは外國人で華僑はこの部門では稍々ふるわぬけれども國內仲介機關として大なる勢力を有つてゐる。

輸出品の主なるものでは米が壓倒的に輸出の半分を占め、次いで錫、ゴム、チーク材であり、此四品で總額の九割を占めてゐる。

達し、輸出農産品としては米に次いで第二位、世界ゴム産額に於ては第五位である。

棉花は現在自給自足の状態で輸出するに至らないが棉作地として惠まれてゐるので大規模の増産計畫を建て着々實行に移しつつある。胡椒は歐洲に名聲あり、全部輸出される。其他胡麻、豆類、古々椰子等これに次ぐが、農業技術が幼稚の爲め進歩せず住民は相變らず貧困であり、白人と華僑が其間に利益の大部分を獲得してゐる。

全國土の七、八割は森林地帯といはれ、林業は甚だ盛んである。其の内チーク材に至つては世界第一位を有ち一頭地を抜いてゐる。泰の製材工業は白人の獨占で、華僑でも一流工場は僅か二ヶ所だけ有するのみである。然し二流工場は一千を有し精米工場と共に華僑の獨壇場である。チークの外に花欄、紫檀、黒檀、黃楊紫等を輸出してゐる。

泰は佛敎國ではあるが魚類のみは特免で主要副食物として食膳に上され、重要性に於ては農業に亞ぐ基本産業となつてゐる。生魚の外鹽乾魚として近國に輸出してゐるが漁業亦華僑が獨占してゐる。

泰國の品目別輸出入額 (單位 千銖)

		昭和10-11	11-12	12-13	13-14	14-15
輸 出	米	90,836	95,944	75,342	97,419	113,300
	錫	23,375	29,809	37,528	30,814	41,331
	錫 鑛	13,219	23,536	22,669	25,123	30,193
	鹽 魚 皮	5,052	8,652	9,112	6,694	7,885
	鹽 魚 皮	1,785	2,132	1,831	2,263	1,521
輸 入	錫 鑛	1,620	2,557	2,971	969	1,245
	錫 鑛	511	602	817	789	1,634
	綿 織 品	18,869	16,729	16,785	21,960	17,992
	食 料 品	15,849	16,650	16,680	16,798	14,871
	金 屬 製 品	10,071	9,387	10,449	12,830	14,719
	油 類	11,428	9,932	9,896	10,381	8,935
	麻 袋 類	5,265	5,349	3,150	5,330	12,964
	機 械	4,158	5,417	6,666	7,653	6,983
	煙 草	5,476	5,469	5,530	4,298	2,160
	酒 精 飲 料	1,283	1,911	1,575	1,669	1,807



泰國の貿易相手國 (單位 千銖)

		輸 入			輸 出		
		昭和11-12	〃12-13	〃13-14	昭和11-12	〃12-13	〃13-14
日支香昭東彼印英獨	本那港	28,259	22,097	19,127	5,105	5,967	2,389
	南印	4,448	3,586	5,242	1,548	610	263
	南印	10,152	8,540	13,263	26,369	21,124	21,602
	南印	17,795	17,867	19,572	51,504	52,659	62,698
	南印	5,597	5,544	5,628	830	1,350	741
	南印	8,703	11,786	11,902	49,331	58,110	49,848
	南印	4,689	4,382	7,693	6,153	2,000	1,295
	南印	11,167	13,679	15,237	3,965	2,719	2,899
	南印	5,941	6,966	8,479	1,674	2,724	6,154

輸入では綿製品、食料品、金屬製品、麻袋、石油、機械等が主要品で其他多種類の工業製品に及んでゐること他の農業國の貿易と同型にある。貿易相手國としては昭南港と彼南とが非常に多額であるのは此等の港を仲繼港として利用す

馬來

輸入に於ては英領馬來が第一位で總額の二四・五%を占め、日本は第二位の一四・七%であるが、一位の馬來市場の商品中には多量の日本品が含まれてゐるから、日本商品としては常に第一位である譯である。次いで英、香港、獨印度、米國からの順になつてゐる。日泰貿易は最近輸出入共に増勢の傾向にあり、今迄は日本の賣越しになつてゐるが、米の輸入が増加したりしたので寧ろ出超となつてきた。

舊英領馬來とは海峽殖民地、馬來半島中の英領、遠く離れたコス、キーリン、クリスマス島、ボルネオのラプア島、ブルネイ、サラワク、北ボルネオを總稱するのであ

るが一般に馬來といへば海峽殖民地と馬來半島の英領地域を指す場合が多い。一般的馬來は縱七百浬、幅は最廣三百二十浬に涉るお玉杓子の如き半島で皇軍が東北端コクバルから南進して、一舉新嘉坡を陥落せしめた周知の地域である。馬來の總面積は十三萬七千七百餘方浬で日本内地の三分の一である。人口約五百萬、一方浬當り密度四〇人であるが昭南島を有つ海峽殖民地の密度が三九一であるから其他全體としては極めて稀薄である。馬來住民の約半數は支那人系であり混血頗ぶる多く、歐洲人や印度人、支那人の血が混入して判然たる人種別確數は得られない。

此地はポルトガル人が一六〇〇年代に先着したのであつたが、爾後ポルトガル、和蘭、英國の三國間に植民地競争が行はれ、結局英國が領有し遂に現在に至つたのである。

住民 原住民たるマレイ人は多くは農に従事し、海峽殖民地を除いては商業方面に従事するものはあまり多くない。

馬來人の宗教は回教であるが先祖の信仰してゐたヒンズー教の影響も残存して之を抛てゝはゐない。

馬來の品目別輸出入額 (單位千 海峽弗)

	昭和 9	〃 10	〃 11	〃 12	〃 13	
輸 出	錫	272,519	252,509	292,642	469,232	264,294
	錫	96,724	117,293	141,353	189,769	96,339
	椰子及油	9,580	16,855	19,037	22,794	12,494
	米	3,733	9,205	11,794	14,315	11,887
	鐵	8,610	11,061	10,846	9,589	13,389
輸 入	鐵	4,992	5,557	6,305	7,125	7,357
	米	32,814	40,115	47,118	53,245	59,175
	錫	28,616	18,680	30,665	42,631	30,058
	鐵	8,742	8,264	18,985	29,208	22,673
	煙草	13,388	14,358	16,083	18,854	17,867
	自煉	16,893	13,484	14,301	22,062	18,417
	7,818	11,629	9,099	14,976	10,678	
	6,537	7,051	7,204	10,035	9,744	



馬來に於ける華僑は市街地に最も多く海峽殖民地に於ては他人種の約二倍が支那系であり、錫山の労働者は殆ど皆支那人である。馬來華僑の出身地を見ると、大小の商人、農業方面では福建のもの多く、錫業では廣東人大部分を占めてゐる、又採掘業に従事するものもある。海南島出身者は市街地に於ては家庭に、市外ではゴム園に働いてゐる。客家も廣東人と同様錫山に働くものが多い。

**産業と貿易** 馬來は周知の如く護謨と錫の産地で、共に世界第一位の産出国である。ゴムは大經營農園作付反別の三分の二は殆ど英米人の經營に屬し原住民は労働者として雇はれてゐる。

錫の開發は主として華僑の手によつて行はれ、以前は八〇%は彼等の手にあつたが、其後歐米人の近代的採掘法を用ひるに至つて白人採掘六〇%、華僑四〇%となつた。他の農産物としては古々椰子が重要輸出品であり、コブラ、ココ、ナツト油として出されてゐる。米は國內消費の七〇%を滿たすに過ぎず自給自足出來ず隣邦の泰、佛印、ビルマから輸入をしてゐる。

占めてゐることである。

錫以外の礦物には鐵、燐礦石、マンガン、金、石灰が主なもので鐵は推定埋量二億噸と云はれ殆んど日本人の手によつて經營されてゐる。

馬來は輸出も輸入も仲繼的性質を多分に持つてゐるので純粹の馬來産のものだけに就て云へばゴムと錫は輸出の約九割を占めてゐるものと見積られる、又此の外、馬來に錫礦の輸入があるが、之れは東印度及び泰より來るもので、馬來は之等の礦石を自國産礦石と共に精煉し、錫として輸出するのである、其他綿布、金屬製品、車輛類など各種の工業製品を輸入するが、これなども仲繼的のものが相當あつて、綿布なども輸入の約二割は再輸出であつた、馬來の貿易は連年出超であるが、この事は反面に多額の利益が外國へ持ち去られてゐることを證するのであつて、ゴム園及び錫山に對する外國人の事業利益及び人口の半分に達する華僑の本國への送金が毎年巨額に達した。(馬來の華僑は南洋華僑中で最も本國依存の強いものであつた)、馬來貿易の仲繼的性質は其地理的位置によるのだから將來其範圍確

水産物は昭南島を中心として東西の沿岸に及び種類豊富である、爰で注目すべきは漁業は日本人が人員に於ては少くないが漁獲高の半數を占め壓倒的の勢力を

馬來の貿易相手國 (單位 千海峽弗)

	輸 入			輸 出		
	昭和12	" 13	" 14	昭和12	" 13	" 14
日本	40,482	12,426	12,480	60,712	53,887	64,257
支那	27,612	23,919	25,906	5,090	3,156	3,898
香港	9,889	8,639	11,664	8,075	7,598	7,259
泰國	94,100	87,881	105,528	14,355	15,704	14,410
佛印	13,361	14,711	17,578	1,107	1,506	1,831
東印度	224,322	152,229	194,245	35,457	40,879	40,915
サラ	33,749	24,125	35,327	8,075	7,597	7,259
印度	17,437	16,259	18,171	24,470	21,269	26,442
澳洲	14,529	13,084	17,486	31,272	26,696	20,834
英國	108,175	102,332	90,897	100,222	82,072	81,146
米	15,944	17,125	18,306	398,851	172,763	321,985

立の後に於ても變らぬであらう。

## ビルマ

ビルマは東に佛領印度支那と泰國とに接し西は英領印度に北は西藏、南はベンガル灣に臨んでゐる。面積六十萬三千二百方秆で(我帝國全土から臺灣を除いた位)、南北最長約三千秆、東西最長約一千五百秆で、人口一千六百二十八萬(朝鮮の三分の二)、一方秆當りの密度二七人であるから滿洲國の密度よりも遙か稀薄である。ビルマ族が最も多く全人口の六八%を占め其他カレン族、シャン族等がある。

此國の歴史は相當に古いもので英領となる迄は獨立王國であつたのである。十一世紀から約五世紀の間バガン王國としてビルマの黄金時代を現出し盛んに佛塔を建てたのである。現在ラングーンにある有名な大光明塔は一〇五七年に建てられたものである。十三世紀來一度忽必烈の來襲で危險に瀕したが恢復し、爾後數世紀を経て新ビルマ王國が實現し、ラングーンが建都された。



ビルマは印度と接壤するにつれ英國の勢力が侵入し、十九世中に英國と戦ふこと前後三回、一八六二年遂にビルマは亡びて英領となり大東亞戰の始まるまで英國の擄取政治がつゞけられた。

### 住民

千六百萬の人口の内、農に従事するものが大多数で七一%を占め、工業關係七%、官吏一%、其他二%である。ビルマに約二十萬近くの華僑が居り、其過半はビルマ生れである。華僑の職業は商業四二%、農業二三%工業一七%であるが、他の南洋地方に見るが如き大富豪のいないことはビルマ華僑の特色である。

ビルマ住民の内印度人が百十七萬の外、印緬混血十八萬ある。ビルマ人は佛教徒であるところから印度人回教徒に對する反感及びビルマ労働者の擄取に對する反撥等から兩者の紛争絶えず、爲めに昭和十六年七月印度ビルマ移民協定が成立し、印度人の入國制限となり、ビルマ人との結婚禁止となつた。ビルマは地域宏大な割合に人口稀薄であることから小作料や借地料が隣國のそれに比して低率であり従つて民衆の生活に餘裕がある。又印度では街路に女子を

見ること無きに比してビルマでは色とりどりの花模様ある日傘をかざして出歩くから印度の陰氣さに反しビルマは陽氣であるといはれる。

ビルマの國教は佛教(小乘)であり、佛教徒が人口の八五%を占めてゐる、其他はアニミスト五%、回教徒四%、印度教徒四%、基督教徒二・三%を占めてゐるのである。

初等教育は佛教寺院で行はれ、讀書、算術、書き方を教へる程度に過ぎない、是等は殆んど至るところに存在して居る。高等教育は大學が統制し、英語學校、土語學校は政府又は地方廳が統制して居り總數八千校、學生數六十一萬と稱してゐる。ラングーンには大學あり其他農學校、工業學校、師範學校も各地に設けられてゐる。

### 産業と貿易

ビルマの最も重要な産業は農業、就中米作である。水田は主として下ビルマ地方に集中して居り、全收穫量の八二%は此地域より産出する。一九四〇年の米産額は七百萬噸、其中輸出されたのは三百四十萬噸であるから、世界第一の米の過剩國で老人も乳兒も一日一升五合宛喰へるのである。併しビルマ農業は極端な粗笨農業の段

階にあつて、米の如きも一ヘクタール當りの收穫量は僅か一・四噸で、日本の三割七分にしか當らないから、日本の農業技術が導入されるならば改善されるだらう。しかし東亞共榮圈全體の立場から見ればビルマが現在の如く米の單一生産國であることは十分考慮を要する。米以外の主たる農産は胡麻、棉花、豆類、玉蜀黍であるが特に注目されるべきは棉花で、ビルマは氣候、風土共に棉花栽培に適し、將來の増産が期待される。

礦物資源としては幾多の地下資源を有し、石油、タングステン、亜鉛、銀、錫、鐵、銅等を豊富に埋藏してゐるが、英國の植民政策によつてその開發は遅々たるものである。

石油はイラワジ河及チンドイン河の流域に産する、全世界の産油量に比すれば大して多いとはいへないが、國內消費が極めて少なく、産出量の大部分が輸出されてゐた點から見れば其重要性は明瞭である。ビルマの石油事業は今迄は全く英國の資本に獨占され、ビルマ人は石油事業に介入し得ない状態であつた。

タングステンは世界第二の産出量を有してゐる。しかし

ビルマの品目別輸出入 (單位 千留比)

輸 入	輸 入		輸 出	輸 出	
	昭和13	14		昭和13	14
織 製 品	35,854	58,635	米	109,760	151,244
金 屬 及 鑽 石	15,342	20,295	油	103,435	117,374
黃 麻 及 同 製 品	14,005	18,751	パ ラ フ ァ イ ン 及 蠟 燭	17,893	26,026
食 料 品 類	12,777	13,992	タ ン グ ス テ ン 鑽	20,410	23,802
機 械 類	11,769	13,749	木	23,559	22,842
油	10,890	13,325	鉛	22,598	20,475
煙 草	8,864	9,367	雜 穀 及 製 粉	7,975	12,741
原 綿、綿 絲 及 屑	7,405	8,056	チ ー ク 材	10,248	10,970
金 物 類	4,550	5,982	棉	7,319	10,049
石 炭	5,596	4,581	錫	5,146	7,047
穀 類、豆、穀 粉	5,247	4,471	糖	11,485	6,324
魚 類	4,441	4,353	護 謨	5,051	3,301
計(其他共)	207,778	251,602	計(其他共)	485,015	550,555



これ等の資源を通じて現在迄のビルマの鑛業は幼稚な段階にあり、資本と技術は英國人に、勞働力は印度人に依存してゐるのが同業の現況であつた。

農、鑛に次ぎやゝ見るべき産業は林業であるが、特にチルク材の産出は泰と共に世界の主要供給地であり、年輸出約二百五十萬噸に及んでゐる。

ビルマの工業に於ては殆んど見るべきものなく、僅に精米所が華僑及びインド人の手に行はれてゐるに過ぎない。ビルマの全貿易額中、輸出の五五%、輸入の四五%は對印度貿易によつて占められ、更に英帝國領の貿易をも之に加算すれば、實に輸出の八五%、輸入の七四%に達する現狀である、又貿易は連年出超であるが、これは印度人から搾取され、更に英國に搾取されて、二重桎梏の下に居たのである。毎年一億數千留比、其他の英領諸地に對しても亦一億數千萬留比の出超であつた。

輸出の大宗は米で、次いで鑛油、金屬及鑛石、木材等で此四項目で輸出總額の約四〇%を占めてゐる。輸入品は綿製品を大宗とし其他各種の生活資料、工業製品に及び、又

鐵鋼、黃麻及同製品(米の包装用)も相當多額になつてゐる。

貿易相手國は輸出入とも印度が最大で、總額の五%以上を占めてゐる。即ち經濟的に印度と不可離の關係にあつたことを示してゐる。それ以外の地方との貿易は微々たるもので、英領地以外の東亞との取引は輸出の五%、輸入の二%に過ぎなかつた。

前表は海路貿易のみで、この外にビルマは支那及泰國に對する陸路貿易が從來より多少あつた(輸出約七百萬留比輸入百數十萬留比)。併し、昭和十四年頃より所謂ビルマルートによる對重慶援助貿易が大規模に行はれ、之は普通統計に現はれないが、昭和十五年四月より十六年三月に至る同ルートの對重慶輸出額は一億一千三百九十一萬五千留比に上り、軍需品以外、食料品、衣料品其他有ゆる物資を含み、玩具の如きものでも三千留比に達してゐた。

ビルマ相手國別貿易 (單位 千留比)

	輸 入			輸 出		
	昭和12	" 13	" 14	昭和12	" 13	" 14
日本	20,914	14,255	20,180	11,531	9,039	21,933
印度	117,058	111,842	139,870	256,901	253,558	330,630
セイロン	731	457	930	29,774	27,118	30,468
馬來	6,149	6,412	6,597	36,896	33,931	30,759
支那	483	522	1,177	2,650	2,052	4,318
香港	2,761	3,036	3,584	4,942	2,442	1,274
東印度	633	396	1,145	4,474	6,796	3,818
英國	10,331	7,408	14,665	1,068	803	5,414
南聯邦	47,918	39,110	43,250	85,254	61,655	72,656
加爾各答	453	587	135	2,924	2,429	3,453
仰光	—	234	192	—	1,530	2,366
暹羅	4,628	3,153	4,060	—	—	—
其他	7,830	4,825	7,206	19,206	18,475	7,206

### 東 印 度

皇軍占領前迄は蘭領東印度として知られてゐた、赤道の南北に跨る約千五百浬の間(北緯六度より南緯十一度)、東西約四千五百浬(東經九十一度乃至百四十一度)に散在する世界最大の群島よりなる。其面積百九十萬四千方浬で、日本内地の五倍、和蘭本國の五十八倍に相當する。從來は行政上、ジャワとマツラの兩島を他の諸島と別個に取扱ひ後者を外領と稱してゐた。之は人口の密度、文化及經濟的意義等を根據としてなされたものである。面積から云へばジャワ、マツラは十三萬二千方浬、外領百七十七萬二千方浬で、其比、一對十三であるが、人口に於ては前者四千八百萬人、後者二千二百萬で、其比は二對一である、一方浬當りの人口密度はジャワ、マツラが三五三人で世界一の稠密振りを示し、外領は僅か一六人當りで極めて稀薄である、然しこれも正確であるか否やは判然してゐない、事實上蘭印の島の數でさへ數へられた事はないと言ふことである。



東印度は一九二二年最初の歐洲人マルコポーロが渡來して以來、ポルトガル、西班牙、和蘭、英國との間に熾烈な争奪戦が行はれ複雑な徑路をたどつた結果、和蘭の統治權が完全に確立することになつたのは一八一六年の事であつた。爾後本國の極端な暴政で原住民の反亂を惹起したことも屢々であつたが、第一歐洲大戰以來、和蘭政府の政策轉向から外國の投資が殺到して特異の發達を示す様になつたのである。けれども和蘭の從來とつて來た政策の本質といふものは東印度をして本國の營養吸收地とするにあつたことは變らない、即ち彼等原住民七千萬を對象とする製品の消費市場としてよりも、むしろ農産、鑛産の資源供給地として之を取扱つて來たのである。

**住民** 七千萬の住民の内六千八百萬はインドネシアメラネシア系の原住民で、支那人百四十萬、歐洲人二十五萬其他各地の人種を網羅してゐる。之等宏大の地域に於て使用される言語は約三百種といはれるが、東印度全體に通用する言語は馬來語である。原住民の九割以上は回教徒で新舊基督教徒は百二十萬程度である、和蘭本國が新教國で

くべからざるものがあるからであらう。  
和蘭は東印度原住民の教育に關しては、他國殖民地のそれよりも幾分か積局的であつて、小學、中學、専門學校の外、工科、齒科、法科の大學もあり、歐洲人と同等の教育を受けることが出来るやうになつてゐる。併し其の反面に於て教育普及に伴ふ原住民の文化向上は、必然的に彼等の自覺心を刺戟し、民族自決思想を培養するの結果を招來することを恐れてゐた。

**東印度の産業と貿易** 農産物としては其産額に於て規那、カボック、胡椒は斷然世界第一位にあり、護謨は馬來に次いで第二位、コブラ等の椰子加工品は比島に次いで第二位、油椰子はアフリカに次いで第二位、アガヴ(厚質纖維)はタンガニカ及メキシコに次いで第三位、茶は印度、セイロンに次いで第三位、コーヒはブラジル、中米、アフリカに次いで第四位、砂糖は輸出國としては第二位、生産國としては政馬及印度に次いで第三位、カカオは西アフリカ、アメリカ、サントメ、セイロン及オセアニアに次いで第六位である。其他煙草、米、玉黍蜀、落花生、シ

あるところから基督教は各派競ふて住民の教化に努めたけれども、好成績を収めたとは言へない、政治上では壓迫を試みながら他方宗教に限り自由、平等、博愛を説いたところでも彼等を首肯せしめないのと、回教の勢力牢固として拔

東印度の入輸品種別 (單位 百萬盾)

	昭和11	" 12	" 13	" 14	" 15
動物植物	0.2	0.2	0.3	0.2	0.1
食料品・嗜好品	60.2	77.8	88.8	86.8	67.0
動物植物製品	3.1	5.4	5.0	4.8	4.6
鑛産物	7.5	10.4	12.9	12.7	15.1
化學藥品	27.7	44.7	41.6	49.4	52.4
陶磁器	2.4	4.0	3.6	3.8	3.4
硝子及同製品	3.4	5.8	5.5	4.8	5.2
木材及同製品	3.1	5.4	6.3	4.0	9.4
皮革及同製品	2.3	3.9	3.8	3.2	2.5
絲布類	84.9	157.6	120.6	123.1	120.5
紙及同製品	11.2	18.3	16.4	16.4	20.5
金屬(除金銀)	27.1	63.6	58.2	59.2	78.0
車輛・船舶	13.6	27.3	40.5	33.3	24.4
機械器具	28.7	57.3	66.6	61.3	40.7

東印度の輸出品種別 (單位 百萬盾)

	昭和11	" 12	" 13	" 14	" 15
動物性製品	10.8	12.5	8.0	8.4	8.1
ゴム	87.8	298.1	135.4	196.5	332.3
藥材・香料	28.8	26.6	30.1	29.1	37.1
コヒ	15.9	26.0	13.7	11.9	7.8
植物性油脂	70.8	104.4	65.7	49.2	29.0
砂糖	34.1	51.1	45.2	78.0	53.1
煙草	37.9	34.8	35.6	26.6	37.3
タバコ製品	11.8	18.4	9.2	9.9	13.2
茶	42.9	49.1	56.2	57.1	50.4
植物纖維類	16.9	23.4	16.1	19.7	16.2
其他農産物	27.8	37.7	29.1	28.9	29.8
礦油・同製品	97.5	166.6	164.0	159.0	174.7
錫	19.4	29.4	11.9	27.7	36.9
鋳	26.7	54.7	21.6	31.6	35.1

トロネラ等が多量に産出する。鑛業は農業に亞ぐ重要産業で埋藏鑛物は左の如きものがある。  
石油、石炭、錫、金銀、鐵、銅、滿俺、鉛、亞鉛、ニツケル、白金、クローム、タングステン、水銀、モリブデ



ン、蒼鉛、アンチモニー、ダイヤモンド、沃度、硫黄、燐  
 礦、アスファルト、菱苦工礦、ボーキサイト。

右の内採掘されてゐるのは石油、石炭、金、銀、滿俺、  
 沃度、錫、アスファルト、ボーキサイト、ダイヤモンド及  
 硫黄で就中石油、錫は世界的有名である、埋藏量豊富で將  
 來採掘さるべき物に鐵、ニッケルがある。其他は未着手の  
 ものである。

東印度の工業は農産物の輸出向加工業と國內消費を目的  
 とする製造工業とがある。併し製造工業は未だ幼稚の域を  
 脱せず、生産手段資材は悉く外國より輸入せねばならぬ狀  
 態にある。従つて政府は自給自足と輸入防遏の爲め新工業  
 の勃興に大いに力を注いだので近來の進境は見るべきもの  
 があつた。

東印度の貿易は、其地の資源が豊富の爲め、南方共榮圈  
 國中では貿易額も多く昭和十五年には輸出入合計十三億盾  
 (ギルダー)で、邦貨に換算して約三十億圓である。植民地  
 としては甚だ多い貿易額である。しかも連年出超で、輸出  
 は輸入より四、五割も多く、年によつては二倍ほどにもな

再三の日蘭會商となつたが、不調に終つたことは周知の通  
 りである。

東印度は馬來と共に世界的のゴム及錫の産地であり、亦  
 東亞最大の石油産出國でもあるので、此三者で輸出總額の  
 六二%を占めてゐる。近年ゴムと錫の輸出が特に増加した  
 のは、米國が買付貯藏の増加にあつたことはいふまでもな  
 い。

一方輸入では綿布類が最も多く、次いで金屬品、食料品  
 及び嗜好品、化學藥品、機械器具で、この外車輛及船舶、  
 紙類等も重要輸入品である。

東印度は歐米とも可なりの取引額があつたが近年までは  
 輸出相手國としては和蘭本國が第一位で、次いで馬來(昭  
 南)、米國、日本の順位であり、輸入に於ては日本が第一位  
 で、次いで和蘭本國、馬來、獨、英、米の順であつた。然  
 るに日本に對し差別待遇を行ふ様になつてから、輸入では  
 和蘭が第一位、日本は第二位となつたが、十五年歐洲戰爭  
 勃發後は、米國が第一位、次いで日本、和蘭の順となり、  
 又輸出に於ても米國の取引額は飛躍的に増進して第一位と

つて居り、之を見ても、東印度が和蘭にとり如何に利益の  
 多い所有物であり、又如何に搾取してゐたか判るわけ  
 ある。多數の和蘭人が此の搾取によつて生活してゐたので  
 或は事業利益を取り或は多數の官吏が東印度で多額の給料  
 を得て本國へ送金するなど、之等は凡て東印度貿易の出超  
 によつて支辨されてゐたのである。

第一歐洲大戰中東印度が日本より輸入してゐた率は總輸  
 入の一〇%を占めたに過ぎなかつたのが十年後の世界不況  
 ゴム價格暴落があつて大打撃を蒙つた年(一九二九―三〇  
 年)には其率一二%となり、以後毎年飛躍して一九三四年  
 には三二%以上を占むるに至つた。然るに他方、日本の輸  
 入、即ち東印度からの日本向き輸出は一次大戰中の四%内  
 外から居居りて一九三四年には三・九%、翌三五年には五  
 ・四%に増加したに過ぎないといふ現象を見るに至つた。  
 斯く日本品の輸出によつて世界各國の東印度向き輸出が著  
 しく脅威を受くるに従ひ、當時世界を風歴しつゝあつた保  
 護貿易政策の影響を蒙つて、爰に從來の自由貿易主義を捨  
 て、積局的保護政策に轉じ、邦品の輸入制限を始めたので

東印度の國別貿易額 (單位 千盾)

		輸 出			輸 入		
		昭和13	" 14	" 15	昭和13	" 14	" 15
日	本國	21,164	24,788	47,967	71,508	85,108	100,855
	和	89,082	145,405	290,907	60,086	63,704	120,783
米	蘭國	130,118	106,626	48,099	71,508	96,712	62,177
	英	34,921	34,084	55,180	38,036	33,232	35,971
支	那洲	9,709	9,819	16,099	8,241	10,171	17,306
	濠	35,977	41,401	37,117	13,262	15,396	16,397
白	耳南	5,230	3,507	215	13,232	12,627	14,639
	昭	108,815	124,388	181,645	38,030	33,466	13,587
獨	港	23,515	14,221	1,841	48,475	41,199	8,887
	佛	11,224	10,877	2,561	9,315	9,248	4,226
佛	西	13,356	13,437	18,107	6,475	6,697	4,224
	香						



なり、爰に米國依存の姿は甚だ明瞭となるに至り恰も米國の屬領たるかの形となつたまゝで東亞戦が始まつたのである。

### 東印度と華僑

東印度のことに關し忘れてならぬのは人種別で第二位である百四十萬の華僑である。彼等の勢力は過去幾度か繰返された彈壓にもかゝらずその勢力は漸次増大し現在ではその地位は非常に強固なものとなつてこれを無視して經濟政策を進めることは不可能であらう。彼等は殆んど商業に従事して居り他の分野にはあまりふるわない、彼等はあらゆる地域に僑居して原住民の生活の中に喰入り、貿易商と消費者との間に立つて配給者として重要な地位を占めてゐる。

### 現在の東印度

昭和十七年三月六日今村蘭印方面作戦軍最高指揮官はバタビアに入り、日本軍が接收軍政を布

くに至つた。  
行政方針としては從來の諸機關は軍政に差支へなき限り當分踏襲すること、順忠なる官吏及びその職務、良民の生

命及び正當なる財産權並に本來の宗教はこれを尊重することなどが示された、中央政廳はジャカルタ(舊バタビア)にあり、司政長官には林久次郎氏、顧問に兒玉秀雄伯、北島謙治郎氏が任ぜられた。

通貨はギルダの軍票が流通してゐる。

キナ、コーヒー、ゴム、茶、砂糖の企業栽培、生産、貯藏、販賣と企業の維持並に其專園労働者の生活保持のため之等は軍の管理下に置かれてゐる。

昭和十八年六月

## 大東亞共榮圈の常識

補遺Ⅱ軍政下の南方地域

大阪南方院



## 南方軍政運営の基本事項及び現況

(陸軍の部)

大東亞戦争開戦以來、南方占領地における軍政は占領地の物心總力を戦争完遂へ結集することを最大眼目とし、治安の回復、重要國防資源の急速な取得および作戦軍の現地自活の強化を目的として強力に施行されて來たが、現地軍官民の甚大な努力と國內からの支援とにより着々その實效をあげ所期以上の進展をつよけてゐる。今回陸軍では南方軍政運営の基本事項およびその現況につき左のごとくこれを明かにした。

### 第一 軍政の基本事項

#### 一、軍政機構

軍政は統帥行爲の一部であつてこれが實行の責任は軍にある。したがつてこれが運営も指揮統帥の系統にしたがつ

て行はるべきものであるが、一面國務と密接不離な關係をもつものであるから、その基本的事項はこれを大本營、政府連絡會議の議によつて決定し、また經濟處理の企畫および統帥などについては大東亞省の連絡委員會を通じ關係各廳と密に連絡決定するなど、よく軍政に國家の總意を反映せしむることく措置せられてゐる。

現地の軍政機構であるが、南方各地域は各々その特性を有し、且つその統治要領も地域により差異があるので各地の軍政機構もまた各々特色をもたしてゐる。概括的にこれを述べれば比島およびビルマでは現住民による行政府を、わが指揮下に運用し、他地域では軍自ら行政に任ずるの方式により機構が定められてゐる。

各軍には軍政實施の衝に當る軍政監部が設けられ、その本部はところにより多少の差異あるが概ね總務、内務、司



法、産業、財務、交通、敵産管理の各部に分れ、恰も内地における各省のごとき中央行政機關として活動し、地方行政機關としてはジャワの大部、マライ、スマトラ、ボルネオ各州市に司政長官以下を配し、比島およびビルマは各州市の行政は行政府に管轄せしめある故にこれが指導のため各々數ヶ所に軍政支部を置き、またジャワのジョクジャおよびソロの二州ならびにビルマのシャン諸州のごときはわが指導下に従來の土侯をもつて地方行政の衝に當らしてゐる。

右に述べた軍政機構の要員であるが、これには成るべく軍人を減少し、各省の官吏および民間有能者を充實して統治成績の向上に努めてゐる。しかしながら占領地は將來において一部に敵の反攻を豫測しなければならぬので、作戦と軍政とは緊密一體でなければならぬのみでなく、作戦軍日常の健兵壯馬の策も軍政と不可分の關係をもつて軍政機關中所要の位置には武官を充當してゐる次第である。

大東亞省と軍政の關政であるが、本質的には大東亞省設

置により軍政は何等變化はない。しかし前にも申述べたごとく軍政と國務とは容接不可分の關係があるから軍政に國務より協力を必要とする部面、即ち占領地外の大東亞地域（内地を含む）と關聯ある事項、將來に備ふる調査、研究、準備など尠くないので、これらは大東亞省で大東亞を一環として處理に當るを適當するのである。したがつて南方經濟の企畫調査などは大東亞省の連絡委員會によりこれを審議し、また南方要員の鍊成に當る興南鍊成院も大東亞省の所管となつてゐる。

## 二、軍政指導要項

現に軍政を運営するため模本としてゐる指導要領中主要なる事を述べれば次のごとくである。

(一) 統治の實施に當りては特に風俗習慣の尊重に留意す。即ち統治は物心兩面の把握ありて始めて全きを期し得るのであつて、軍政の目的たる治安の確保も重要國防資源の急速取得も、住民の心からなる協力を得て始めて實現し得べく、これがため注意へ加へてゐる諸件は在來の習慣の尊重をもつて第一としてゐる。その地の歴史および民族性

などを深く研究することなく、徒に多くの法令を制定し、または土地に合せざる風習などを強要する等の民心離反の原因をなすことを嚴に戒めてゐる、故に軍政實施に方りては在來の風俗習慣はこれを十分に尊重し、不必要なる容喙改正等はこれを避けしめてゐる。就中宗教は原住民の心底に深く浸透し、その信仰心また極めて旺盛なるにかんがみ、在來の宗教は統治に妨げない限り、これを保護するの方針により、また信仰にもとづく風習は努めてこれを尊重しもつて人心の安定、民心の把握に資してゐる。

第二は土侯の取扱であるがこれまた社會的、宗教的また場所によりては政治的地位を有してゐたものであつて、これが取扱には特に慎重を期し、徒に日本人的優越を振聲翳て土侯を輕蔑し、或は土侯の私生活に細部の干渉を加へるがごときはこれを避けてゐる。

第三は日本人の自重であるが、従來の例によると異民族に對する個人的不當の行動が政策全般を打壞し、民心を惡化せしめたことが尠くないので直接異民族に接すべき軍政要員進出邦人は特に日本人たるの矜持を保持せしむること

く指導を加へてゐる。

(二) 極力殘存統治機構を利用し不必要且つ速急な改變を避け、統治の圓滑化を期するとともに成るべく多くの原住民を活用して最少限の日本人をもつて統治の目的を達成すべく着意してゐる。

(三) 民族指導は治下諸民族に對して大東亞戰爭の眞意を徹底せしめ、もつて同甘共苦各々その能力に應じ、欣然わが施策に協力せしむることを主眼とし

原住民に對しては當面徒らに觀念的主義を鼓吹し、或は形式的文化の普及を避け、帝國に對する信倚觀を助長せしむることを方針として指導し、

華僑に對しては各地域の特性にもとづき、われに協力同調することく指導し、心より悦服し來るのに對してはその經濟的活動も相應にこれを認むる方針であり、インド人に對しても帝國は英領インド人に對し攻撃を加へあるもインド人を敵とするにあらずして英米の武力を破摧するの眞意を明にし敵國人に對しては、もちろん斷乎たる態度をもつて、これに臨みあるも、われに心服し來るものにして、技



術者等はその能力を發揮せしめてゐる。

樞軸諸國との關係ますます緊密を加ふるの秋、これら諸國民のわが占領地に在留するものに對してなし得る限りの便宜をはかつてゐることはもちろんである。

(四) 軍政の實施に方りては徒らなる劃一的方策を排してよく各地域の戰爭遂行上に於ける地位、産業經濟上の能力および民衆等につきその特殊性を審にし、特に各地域に對し帝國が何を求めんとするかを明かにして施策の宜しきを得るに努めてゐる。

(五) 經濟開發において特に留意してゐるのは先づ極力現地の人的、物的資源を活用して成るべく國內の負擔を軽減しながら開發目的の達成をはかるをもつて第一とし、次に開發能率の發揮を庶幾して十分民間業者の組織および經驗を活用して生産性の向上をはかること、これがため徒らなる觀念的統一企業體の結成は避けてゐる。しかしながらこれら擔當指定業者に對してはその權益を與へたものでもなく、また既成事業として將來必ずこれを附與するものでもないことは明示せられてゐる。

## 第二 軍政の現状

以上述べたごとき機構と要領とによつて軍政を實施中であるが、各地域とも概ね順調に發足し、且つ要員の進出、機構の整備に伴ひ既に本格的統治の段階に達してゐる。今各部門毎にその現状を述べれば次のごとくである。

### 一、治安

治安に關してはマライの一部に少數匪賊の蠢動をみるのと、比島は數千の島嶼より成り立つてゐるために交通不便なるよりして一般に他地域に比しやゝ不良ではあるが、その他は極めて良好であつて治下諸民族は悉く皇軍の威武に悅服し民心は極めて安定してゐる。

また比島にありては現地各部隊各機關の連續不斷的討伐と宣撫工作とが效を奏し、治安は逐日良況に向ひつゝあるは喜ばしい。しかしながら戰爭の進展とともに民生は逐次逼迫し來るは當然であつて且つ敵の反攻をも豫期するを要するので治安維持の困難性は寧ろ今後にありとの心構へを

しかしてこれら擔當指定業者もこの國家の方針に遵ひ南方開發擔當の光榮を認識して挺身努力してゐるのである。南方經濟において問題となるは各種特産資源であるが、これらは徒らに消極減産を行はず、綜合的開發利用の方途を拓く方針にて進んでゐる。

(六) 敵産處理については南方にある莫大なる敵産をもつて帝國の戰爭遂行力の劃期的躍進をはかるごとく適切な施策が講ぜられてゐる。したがつて前項でも述べたごとく、これら敵産が戦後私人の特權化するがごときことはもちろん、全國民が均霑し得るごとく特別の工夫が考究されつゝある。

(七) 海上輸送力の重要性はこゝに贅言を要しない。南方經營でも決定的要素とも稱し得べく、南方各地においても海上輸送力増強のため用ひ得べき方策は剩すところなく利用するごとく努めてゐる。

(八) 財政金融、速に財政の自立をはかつて軍政費はもちろんのこと、將來は國防に要する經費も應能負擔するごとく努力してゐる。

もつて現況に油斷することなく、これが對策に遺憾なきを期してゐる。

### 二、行政

各地域の裁定にともなひ軍政による統治を開始したが、初期においては軍政機關未だ整備せられなかつたゆゑ一部においては作戰部隊をもつて統治に任じたところあるも逐次軍政要員の現地到着にともなひ本格的軍政に推移し、現地においては各地域とも概ね統治は浸透し銳意軍政目的の達成に邁進中である。しかしてその行政の運営方法においては各地域に應じ、その特性があるからその概況を左に述べるごとくなる。

#### (一) 比島

比島は従來の統治形態等にもかんがみ、行政は比島人をして行はしめ、軍はその大綱、重要事項につき指揮命令するの方式により、軍政目的を達成せんことを期してゐる。即ち周知のごとくバルガスを長官として昭和十七年一月二十三日比島人をもつて概ね戦前の形態に則り行政府を組織せしめ軍政監部の一下部機關にして直接比島人を對象とす



る行政の実施に當らしめてゐる。

地方行政に關しては戦前の四十九州十市を編合して四十  
六州八市とし、これまた比島人による州知事以下を配置し  
行政の管轄下に行政実施に任せしめてゐる。

軍政監部は前述行政政府を監督するほかバギオ、マニラ、  
レガスピー、セブ、ダバオに支部をおき司政長官以下を配  
し行政府地方廳の指導に任せしめてゐる。

#### (一) ビルマ

ビルマまた比島と概ね同様の方式により軍の指揮下に昨  
年八月一日バーモを長官として行政府を組織せしめ、シャ  
ン諸州およびカレンニ州を除く他地域の行政に任せしめて  
ゐる。

地方行政としては州にビルマ人の知事をおきこれに當ら  
しめ、シャン諸州およびカレンニ州は行政府の管轄下に入  
ることなく、軍政監部よりシャン州政廳を分派し該地區  
の軍政を実施しつゝあるも土侯の行政權を認めて下部行政  
に任せしめてゐる。

ビルマ人の皇軍に對する協力は作戦開始以來誠に熱烈な

るものあり、したがつて軍政よく浸透し治安また甚だ良好  
なるはビルマの戦争現段階におけるその重要性にかんがみ  
特に心強き次第である。

#### (二) マライ、スマトラ

マライおよびスマトラは比島およびビルマと異り、全行  
政を軍自ら實施し、中央行政は軍政監部これを擔任し、地  
方行政のためには昭南特別市およびマライ十州スマトラ十  
州に市長および州長官(司政長官)以下を配置してゐる。

もちろん行政機構内には十分原住民を採用し、縣以下は  
悉く原住民に委するの形態をとつて最少限の人員にて統治  
目的の達成を期するが、行政府を運用する比島およびビル  
マの方式とは大なる相異がある。土侯(サルタン)に關し  
てはマライにおいてはその社會的名譽、特に宗教上の權威  
を保持せしめ、民心指導に當らしめ、スマトラにおいては  
州長官の指揮下に地方行政に參與せしめてゐる。マライ人  
口の四割を占むる華僑も占領當初嚴格なる態度をもつて臨  
みたるをもつて爾後においてはわが威武に服し、目下にお  
いてはわが施策に協力しある狀況である。

#### (四) ジャワ

ジャワの行政はマライおよびスマトラとは同様の方式  
により軍政監部より十七州およびジャカルタ特別市に州長  
官および市長としての司政長官その他を配しあり。しかし  
ながら特に差異があるのはソロおよびジョクジャの二土侯  
州であつて兩州は従來の土侯をこのまゝ州行政の責任者と  
なし、政務指導部をもつて、その指導監督に任じてゐる。

ジャワにおけるオランダ人は約二十萬(うち五萬純粹の  
オランダ人)であつて、それは一部主要なるものを監禁し  
他は逐次居住制限を行ひつゝあるが石油、鐵道の技術者、  
主要研究者等わが軍政施行に利用し得るものはこれが活用  
をはかつてゐる。

#### (五) 北ボルネオ

行政は概ねマライおよびスマトラと同様にして五州に區  
分し統治しあり。但し北ボルネオは由來他地域と異り華僑  
の政治的勢力大にして縣長は殆どこれが占めるところであ  
るから一部軍政要員を増加し、縣長は日本人をもつて代ら  
しむることと處置してゐる。

#### 三、邦人進出狀況

南方諸地域に進出する大和民族は治下諸民族に對する指  
導的使命を負荷すべきものであつて、従來のごとき移植民  
的觀念をもつて律するを排してゐる。

しかして共榮圈の核心である日滿支の建設事業、特に重  
要國防産業要員および兵員の所要數も逐次増加し、實際問  
題として現下多數の邦人を南方に進出せしむることは至難  
である。

一方開戦以來國民の南方進出熱の昂揚は誠に喜ぶべき現  
象であつて、轉廢業者の進出希望者も多いが上述のごとき  
狀況にかんがみ、悉くを南方に進出せしむることは出來な  
い。もとより轉廢業者中内地の重要産業要員たり得ざるも  
のであつて軍政實施および産業開發に必要な人員を進出  
せしむることは現地のためにもまた國內問題としても適當  
なるをもつて、現地において眞に必要にして且つ成功可能  
なる職業の種類、人員等を調査中である。

次に既往滿洲および支那の經驗にかんがみ進出邦人に對  
しては眞に原住民の指導者たる資格と矜持とを保有せしむ



ごとく、ますます指導に注意を加へ、不良なるものは斷乎送還するの處置をとり、現在まで若干名の被送還者をみてゐる。

なほ既往邦人はこれを優先渡航せしむることく國策決定せられ、逐次その復歸をみつゝあつて、特に既往の經驗を活かして軍政と在住民との媒體的役割に遺憾ならしむることく活動せしめてゐる。しかして昨年十二月末までに進出したる邦人数は軍機關（軍政機關が大部）要員ならびに經濟開發要員各約六、七千名、再渡航者約三千名である。

#### 四、統濟開發

皇軍力闘の戦果として敵の破壊を免れたる生産施設尠からざるに加へて神速なる軍政の滲透により工場、事業場等の復舊は戦前の豫想に比し遙かに迅速良好であつて石油、鑛山などの重要國防資源において特に順調である。しかれどもこれら豊富なる資源も戦争遂行力となすためには内地に輸送することを要するのであつて、一面においては船腹増強に努め、他面においては國防上緊要なる資源輸送に船腹を成るべく多く利用せしめ得ることくはかつてゐる。し

かしてこれら經濟開發の從事しつゝあるは戦前現地に在住したるもの若くは政府よりの指定により新に企業を命ぜられたるものであつて、一般にそれぞれ各軍政監部の指令を遵守し軍と一體となり現下の重大時局を認識して誠心國策に邁進し、僻地の鑛山開發などは間々戦闘直後の敗殘兵または兇賊等の襲撃を受けたこともあつたが、よくこれに屈せず奮闘してゐるの状況は誠に感謝に堪へない。

以下各種資源につきその開發の概況を述べれば次の通りである。

#### (一) 石油

油田占領部隊（軍隊および徴用員より成る）は第一線部隊とともに敵前上陸を敢行してそれぞれ所命施設および地域を占領し、特に南スマトラに對しては二月中旬落下傘部隊の敢闘によりバレンバン製油所を占領し、後採油隊の主力は地上第一線部隊に跟随してバレンバン附近に上陸し、爾後引續き奥地に進入した。かくて各地域とも三月既に所要油田および製油所を完全に占據して直に復舊に着手し、着々その功を收め、敵側の著大なる破壊にかゝはらず九月

末には現地従業員の殆んど全部を復歸せしめ、諸施設は現在既に戦前における全諸施設の約〇〇%を復舊し、さらに今後における所要資材の順調且潤澤なる供給あらば昭和十八年度末においては全施設の一〇〇%、産油額は戦前の全年産量を超えるに至るも餘り遠き將來にあらざるを豫想せらるゝ程度の良況にあるは誠に同慶に堪へない。しかして石油開發は軍これを直營し、南方燃料廠をもつて全地域の復舊、採油、製油を擔當せしめてゐる。

#### (二) 鑛物資源

南方占領地において帝國の期待する鑛物はボーキサイト銅、鉛、錫、マンガン、クロム、タンダステン等を主として、これら鑛山中には若干破壊せられたるものもあるも既に大部の企業擔當者が現地に到着し着々開發の成果を舉げつゝあつて、これら資源に關しても既に大部は船腹の増加にとともに帝國所望量の取得は概ね可能なる状況にある。

ボーキサイトはビンタン島およびマライ半島ジョホール州を重要生産地とするも、これが復舊は急速に進展し既に戦前産出量の域を超え本年度においても帝國所望量を賄

ひ得る状況であつて、輸送に關しても航空生産の緊要性にかんがみ鋭意努力中である。

前述せる石油の取得とボーキサイトの確保は帝國航空戦力増強のため確固たる基礎を得たものといふべく誠に心強き次第である。

鐵鋼についても既に開發は相當程度の進捗をみつゝありて昭和十八年度においては輸送これを許さば約〇〇萬トンの取得可能である。

銅鑛は比島においてはマンカヤン銅山を主とし、その他ヒックスバー、アンチクなどを開發し、しかしてマンカヤンの破壊は相當大なりしたため運送開始の時期に若干の遅延をみたが、擔當業者の決死的努力および附近金山施設の轉用などにより十月より出鑛を開始した。銅に關してはピルマのボードウィン鑛山も着目せられてゐるが本鑛山は鉛、亞鉛を主とし銅、ニッケル、コバルトをも含有する鑛石を産し鉛、亞鉛は戦前程度の生産量に達する曉においては資源上のみより論ずれば帝國の所望を充足し、銅に關しても比島と相俟つて帝國銅資源増強に相當なる寄與をなし得る



も、本鑛山は海路もつとも遠隔の地、しかもビルマの奥地にあるをもつて輸送上難點がある。したがつて現地精練の必要性特に大である。しかるに本鑛山は發電施設の破壊相當大であつたので目下銳意これが復舊に努力中にして、近くこれが一部の完成をみると二月より一部の操業を開始する豫定である。

由來東亞の地はタングステンの世界における獨占的産地であつて占領地にありてはビルマのタポイおよびマウチ鑛山を大なる破壊を受くることなく確保し、支那における取得量と合し概ね帝國の所望量を充たし得る狀況である。

これに反し帝國の南域確保により敵國はタングステン取得の途を遮断せられ、その痛苦多大なるものあるは想察に難くないのである。

マライおよびバカン島における錫の世界的産出量については周知のことに屬し、精練所も占領直後より操業を開始したから帝國所望量の充足はもちろん可能である。

### (三) 農林資源

農林資源に關しては南方地域は眞に世界の寶庫とも稱す

コブラ、パーム油、キニーネ等もその重要性にかんがみ既に開發或は蒐貨擔當者を進出せしめ、さらに原住民をも十分に活用し、これが開發に努力中である。

大東亞における不足資源たる棉花に關しては速に南方において培養をはかるため差當り繰綿數百萬ピクルの出廻りを確保することを目標とし、比島およびビルマ、ジャワ、北ボルネオ等の地域を選び増産實行中である。

### (四) 食糧

南方地域における軍需民需の食糧對策はすべて現地自活に徹底し内地よりの追送を絶無ならしむる方針のもとに實施してゐる。これがため不足品は現地相互間の交流を行ひ或は増産をはかり、或はまた代用品の利用に努め、現地において取得困難なる種子、原材料等のみ一部は差向き追送を實施し着々その成果を収め、需給狀況は順調に進展してゐる。しかしマライにおける米は従前より約三分の二不足であるが、極力輸入の節減に努むるため畑作の増産をはかるとともに消費の規正を徹底し、さらに不足する分をビルマ、タイ、ジャワより輸入する計畫にて進んでゐる。

べく、ゴムを始めチーク材、コブラ、パーム油、キニーネ、マニラ麻、砂糖等の生産量は莫大であつて、その交流可能なるにおいてはもちろん東亞圏内の需要を充たして餘りがある。しかし前にも述べた通りこれら特産資源の消極減産の處置をとることなく生産力の維持に努め、將來世界における帝國の經濟的優位確保に資せしめんとしてゐる。しかしこれがためには樞軸國に對する供給はもちろん新用途の開拓に關しても銳意努力中である。ゴムに關してはガソリン轉換は現地において既に實用の域に達し、また潤滑油生産も既に實用化せんとするの狀況にある。

砂糖にありては比島およびジャワにおける糖業は大東亞の現需要に比し著しく過剰であるが、減産等の方法によることなく、これを活用して刻下の急需たる航空燃料の原料たるブタノールおよび自動車燃料アルコール等の製造原料に充當を企圖してゐるので、比島においては甘藷用耕作地の一部を棉作等へ轉換してゐるが、將來豫定ブタノール設備の完成したる曉においては砂糖の需要はむしろ却つて増産を必要とするにあらすやと考へてゐる。

スマトラにおける米は従来より約十分の一不足であるがこれは集穀の増産、消費規正に徴するとともに若干はジャワより輸入する計畫である。ジャワは米および雜穀（玉蜀黍、カツサバ等）とも輸出餘力あり、これが餘力は他の不足地區に輸出する計畫である。

ビルマにおける米の輸出餘力は莫大であつて、マニラ地區に移出するほか餘力は現地において貯藏するのほか、これが用途に關し研究中である。比島における米は若干不足であるが、蓬萊米の生産は極めて良結果を収めつゝあるので消費規正と相俟ち近き將來においては自給自足の域に達せしめ得るものとみられる。

### 五、交通

數千キロにわたる廣大なる戦面を確保しつゝ敵の反攻を撃推するを要する情勢下において軍用に供せる船腹の少からざるものあるは蓋しやむを得ざるところである。かゝる状態においても國の物資生産力に寄與するの要切なるを認め、軍は開戦以來徵備船の歸航船腹を利用して物資輸送に協力してゐる次第だが、何といつても南方建設の成果が戰



争遂行力に寄與するの大小は海上輸送力の如何に懸りありと稱し得るのであつて、南方軍政においても海上輸送力の増強に用ひ得べき手段は盡して剩すなきごとく努力中である。

南方占領地における沈船引揚げの實行力は主として海軍の擔任しあるところだが、陸軍としても極力これに協力するのほか、現地部隊機關をもつて實施し得るものは銳意これが實施に努力中であつて既に處理済のもの〇〇萬トンに達し、これは悉く既にわが輸送力として活躍中である。

また軍政地域における船腹増強のため五ヶ年間〇〇萬トン計畫をもつて既に内地より相當数の木造船建造業者を進出せしめ、豊富な木材と勞力とを活用して銳意これが建造に努力中である。

南方局地輸送力の増強に資するため現地の要求と内地輸送狀況とを勘案して關係の向と協議し、所要の内地機帆船等を進出せしめ、且つ支那戎克の南方進出に關しても研究中である。

南方鐵道は大陸幹線の整備を重點とし、目下においては

先づタイ、ビルマ連接鐵道を建設中であつて遠からず完成の豫定である。また軍政地域内の鐵道は現地資材の轉用により炭礦その他資源開發用の鐵道を建設中であつて、作戰部より鐵道隊および鐵道職員より編成せる特設鐵道部隊により逐次これを復舊して來たが、さらに各地にそれぞれ管理局を設置し、これが運営に任じ、一般營業も開始し、資源開發に概ね遺憾なき狀況である。また自動車は陸運の一元的運用の觀點より鐵道と綜合的に運営するため各地の特性に應じ管理局の直營若くは監督下に民間に經營を委託してゐる。陸運のため所要資材補給は概ね現地資材の流用により充足せしめたるも、將來はこれが對策を願慮するの必要ありと認めてゐる。

#### 六、財政、金融

財政、金融施策の方針は戦争完勝を目標とし南方各地區をしてその能力に應じ帝國の戦力増強に貢獻せしむること、財政の自立、金融資金の現地調達を基調として財政支出金融資金使用の重點を重要企業の開發に指向するごとく運営してゐる。即ち財政、金融資金の調達においては現地經

済力の成果をもつて充足するを目標とし、通貨(軍票)増發を極力抑制し、財政支出においては軍費ならびに行政施行の經費中治安の確保および防衛上必須なる經費以外のものについては重要資源の確保に關する施政に要する經費に重點を指向するものとし金融資金においては重要企業に要する資金を充足することに努め、爾餘の經費ならびに資金は極力壓縮するごとく施策してゐる。

#### (一) 軍政會計

南方各地の軍政施行にともなふ財政は統治形態ならびに各地域の實情に應じ財政制度を確立し、本邦財政と分離して會計を樹立し、それぞれ財政の自立をはかり、進んで經濟戦力の培養に資するをもつて根本方針とし、これが實現に努力中であつて、各軍とも財政組織再建に努めたる結果十七年度後半期以降概ね平常化する財政收支を樹立するにいたり、十月以降三月までの各地域行政會計豫産歳出總計約四億圓を計上するにいたつた。右に占領以後九月までの歳出を加ふるときは五億圓餘の金額に達する程度である。但し本年度においては各地域も經濟活動未だ完全には恢復

しないため、臨時軍事費より補給金數千萬圓を豫定するのやむなき狀況であるが、各軍とも軍政施行の進展に即應し財源の確保擴充をはかり、もつて現地財政自立の實現に銳意努力中である。

#### (二) 通貨

南方占領地域における使用通貨は軍票、在來通貨二本建とし、兩者の價值關係は等價として維持してゐる。

現地における軍票は現地民の絶對の信頼を基礎として圓滑に流通をみ、在來通貨もまたその價值を軍票に比し故意に低落せしむるがごとき措置をとらざるため、兩者の價值關係は等價として順調に流通せられ、通貨工作上顧慮すべき狀況である。しかしして現在における流通通貨量は戦前通貨量と大差なきものと推定せられ、必需物資生産ならびに輸入減にもかゝらず通貨膨脹による悪性インフレーションの傾向は未だ發生しあらざるものと觀察せられてゐる。

また現在現地通貨と本邦通貨、外國通貨ならびに現地通貨相互間の價值關係の成立は原則として認めず臨軍會計による交易制度ならびに臨軍會計を通じての南方開發金庫よ



りの融資制度により交易ならび金融を實施しある狀況なるも、軍政の本格的進展にともなひ根本的なる通貨制度樹立を必要とする要望なきにしもあらざるをもつて、これが具體的研究準備を行ひつゝある次第である。

### (三) 金融機關

南方地域における主要金融機關は本邦側機關を充當し、もつて戦前における敵性銀行の掌握しありし金融指導權を確保する方針のもとに南方開發金庫はじめ正金、臺銀などの支店出張所の新增設を行ひたる結果、戦前支店出張所所在數は二十ヶ所未滿に過ぎざりしに現在においては六十ヶ所を算するにいたつた。敵性銀行は各地域とも接收後内容調査を遂げ逐次清算事務に移行してゐる。在來金融機關の復活は小規模なるものを除き全部中央の認可を受け實施してゐるが、民心の安定資金吸收の必要、庶民金融の緊要性などの見地より敵性を有せざる機關はその復活を認可し、或は舊機關を清算の上新なる組織のもとに再開せしめてゐる。即ちマライにおいては支那系銀行七行、インド系三行、比島においては國設銀行、比島銀行ほか二行、ジャワ

においては庶民銀行、官營質屋などそれぞれ再開せられ必要に應じて本邦銀行より所要資金を融通せしめ、もつて地場金融機關の健全なる回復を期してゐる。南方地區においては金融施策上特に重要な庶民および農業金融機關については民生全般の立場より從來高利率貸出し金利の制限、官營質屋の貸出し利率の引下げ、軍政會計出資に係る庶民金庫の新設等、積極的に庶民金融機關の善導育成を強化してゐる。

### 七、現地自活

作戰軍現地自活の確保は軍政の一大目的であつて、即ちこれをもつて極力國家の負擔を軽減しつゝ作戰を遂行せんとするを方針として進みつゝある。しかしして現地自治の狀況に關して産業および財政金融の各項においてこれを述べたるも、こゝにその概況を一括して述べれば次のごとくである。

食糧に關しては既に全く自活の態勢を確保し、特殊(調味品等)のものを除き全く追送を要せざる狀況であつて、日用品に關しては大部を自活してゐるが、漸次南方地域の

ストック潤渴し來りたるが故に小規模なる工業の移駐により現地材料による製品の生産を企圖して所要の處置を行つてゐる。

兵器および彈藥に關しては、その性質上、現地自活はこれを望むべくもないが、現地工場の轉換により現地修理施

設の強化を策してゐる。

被服も未だ追送によるものが大部分であるが、現地轉工業の復舊振興によりてはその自活程度は逐次これに向上し得べしと思考してゐる。

## 南方軍政の方針と現状

(海軍の部)

東亞の盟主として米英破摧のために正義の劍を揮つてから一年餘、西南太平洋から大陸の天地に堂々進撃するわが軍の向ふところ勝利は常にわが手にあり、神速果敢な陸海、空軍の緊密な作戰は戦争勃發後一年にして、すでに廣域無限の天地に著々軍政の成果を遺憾なく擧げつつある、しかしして我が南方占領地軍政は大東亞戦争完遂、現地作戰軍の要求充足と、國防必需物資の急速開發とを第一義として陸、海軍當局は關係各方面、中央現地等緊密なる連繫の

下、各占領地域とも軍政施行以來着々所期以上の實績を擧げてをり、陸軍軍政の方針、現状等については去る二月一日陸軍當局より明示されたが、海軍當局では十七日海軍軍政の方針機構、現状につき次のごとく詳細に明示された。

### 第一 軍政の方針

占領地軍政は地域實情に應じそれぞれ方式形態等を異に



してゐるが、實施の根本方針は統治上、將又資源開發上統一處理するの要あること勿論なるをもつて、陸海軍は中央において十分緊密に連繫し、なほ大東亞省との關係においても苟くも齟齬を來さざるやう極めて緊密に連絡調整して實施の完璧を期してゐる、すなはち占領地處理ならびに統治上の重要事項は大本營政府連絡會議によつて決定せられまた經濟開發に關しても主要事項は悉く中央において陸海軍および關係各省より成る連絡委員會を通じて決定せられ實施はこれに基きそれぞれの擔任に應じて處理せられてゐるのである、現地にありても陸海軍軍政機關の間には各般に互り折衝調整すべき事項は多々あり、例へば南方地域の物資偏在に基く地域間物資交流の問題、特産資源處理の問題乃至は輸送交通通信郵政の問題等がそれであるが、これらは全般として統治開發上相互に關聯交渉を有するをもつて、それぞれの機關を通じ大局的觀點よりその都度相互に緊密なる連絡調整を行ひ圓滑に實行を進めてをり、陸海軍は中央現地を通じ作戰はもとよりのこと、軍政に關しても眞に同心一體の實を擧げてゐるのである、占領地軍政實施

の根本方針としては先づもつて大東亞戰爭完遂を第一要件とし、速かに治安を回復し、重要國防資源の急速開發を期すると共に、作戰軍自活の途を確保するを緊要とするはいふまでもない、従つて統治開發各般の施策亦悉くこの根本方針に基いて按劃實施せられてゐる、今その主なるものを擧げて見ると概ねつぎの通りである。

(一) 統治に當つては軍政機關は統治の根本を把握して成るべく殘存統治機構の利用を圖り土侯、原住民官吏および民間長老等のうち誠意あり信望ある者を極力活用して運営の圓滑適切を期してゐる、同時に從來の會社組織、宗教、民族的慣行等は之を尊重してなるべく干渉を避け特に日本人の劃一的な方策を濫に強要するが如きことは嚴に之を慎みもつて民心の把握、安定に努めてゐる。

(二) 主要國防資源の獲得開發に關しては急速之が實績を擧ぐることを第一義とし、民間業者の能力及び經驗を最大限に發揮せしめんことを期してゐる、之がため大部分の事業は業種、規模等に應じそれぞれ中央において指定せる適格者に委託經營せしむることとし特殊のものは軍

直營とし、又は國營として委託經營せしむるものもある

が、何れにしても速に戰爭遂行の要求に應ぜしむることをもつて主眼とする、従つて委託經營によるものと雖も當該擔當指定業者に對し權益を與へたものでなく、又所謂既成事實として將來を決定的に約束されたものでもないが、要するに現下戰爭遂行上の急需に應じ、且つ占領地建設開發を期する上に於いて重大なる國家的責任を負ひ、南方第一線における積極的活動を期待されてゐるものであつて、速に實績を擧げることこそ現下の喫緊事と謂ふべきである、なほ原住民の經濟生活に對しては大東亞戰爭完遂の爲不可避とする若干の困難はこれを忍ばしむるの外ないが、作戰軍の自活及び國防資源の獲得に支障を來さざる限り、極力戰爭による影響を救済し、所要限度の生活維持に努むると共に、全般の施策により原住民をして大東亞戰爭の眞意義を徹底せしめ、もつて皇軍に信倚する如く指導してゐる。

(三) 交通輸送、就中物資の輸送に關しては最善の努力をもつて之が增強を期するものとし、港灣施設の完成は固

より、造船、特に木造船の急速促進を圖つてゐる。

(四) 文教對策としては既存宗教その他固有の信仰乃至は社會的慣行を通じて民衆教化を圖るの外、遂かに原住民の學校を復舊充實し、技術教育の普及振興を期し、同時に日本語および日本文化の普及を圖り、彼等をして速かに我方に對し全幅協力せしむる如く措置する方針である一方また進出邦人の指導も統治上極めて重視しなければならぬ、即ち邦人をして指導民族としての確固たる自覺と必要なる素養を備へしめ、大和民族の一員として克く原住民を統率指導せしむるに足る如きものたらしめねばならぬ、これがため渡航者の嚴選に努むるとともに、現地における善導に關しても終始努力を續けてゐる。

(五) 敵産處理についても戰爭完遂を自途として十分に之を活用し、當面の戦力增強に資する如く處理すべきであり、之に關し私人の特權を設定するが如きことなきは勿論である。

(六) 通貨は從來の現地通貨と外貨票示軍票とを併用する但し速に軍票に代るべき通貨を使用する方針である。



大體以上の如き根本方針に基き陸海軍および關係各廳緊密なる連絡の下に戦争目的完遂に應ずる如く統治しつつあり。

## 第一軍政機構

海軍に於る軍政は當該方面艦隊司令長官をもつて現地最高責任者とし、その隸下に民政府總監を置き専ら民政を擔當せしめられてゐる、民政府には官房の外に總務、財務、産業、交通土木、衛生および法務の六局を置き、地方機構としては民政府の下に民政部を置き、民政部長官をして總監に隸してそれぞれ管轄地域の民政に任せしめられてゐる。なほ各民政部管下所要の地には民政部支部がすでに設置せられ、さらに州知事以下の地方行政機構も目下整備中にて民政の地方滲透に努力しあり、民政府および民政部は開設後日なほ淺きも總監以下非常の意氣込を以て任務達成に努め、戦争遂行の要求に照し緩急を計つて着々實績を擧げてゐる。「ニューギニア」においては以上と別に「ニューギ

ニア」民政府が設けられ、總監以下職員は本年初頭すでに現地に進出してゐる。この民政府の組織は他の民政府と異り「ニューギニア」急速開拓を第一義として官房、開拓局衛生局及び調査局を置き、人選も之に適應せしむる如く努めて居り、尙「ニューギニア」は未開の處女地であり、資源においても有望であるので民政府に對し特に有力なる調査探險隊を附し困難を排して急速調査を行ふ如く計畫してゐる。

## 第二軍政の現状

### 一、統治の概況

海軍の軍政管轄地域には未開の地域が多いので、その統治方式も比較的原始的であるが、大體において、差支へなき限り舊來の方式を踏襲してゐる、即ち各州および土侯領の長（州長又はサルタン）は概ね従來の原住民をそのまゝ任命し、これ等に對し新にそれぞれの領域内における政務執行を任し、法令のごときも必要已むを得ざる部分のみを

修正してこれを適用し、徴税もまた同様に續行せしめてゐる、しかし何分にも原始的狀態であつて一般に交通不便なるため各般の統計、資料等いまだ十分に揃はず種々不便も多い。従つて差當り今日までに知り得たる實情に基き統治上の各般の對策を樹立し、緩急に從ひ着々實行しつゝある原住民は全く我軍に信倚し、大東亞戦争の意義を諒解して衷心軍政に努力するの態度に出て洵に心強く感ずる處である。

### 二、一般民情

治安は極めて良好であつて、統治上些かも不安なきも、原住民の生活については各地を通じ米穀の配給交流及び増産に對し大いに努力の必要がある、特に増産に關しては目下「セレベス」「バリー」および「ロンボック」等の諸地域において努力してゐるが未だ需要額を充たすには至つてゐない。同時に又衣服類、雜貨等に關しても占領地相互の物資交流を圖るとともに、現地野生の「ガネモ」と稱する樹皮纖維の採集その他の方法により綿纖維の代用たらしめることをも計畫して近く實行に着手する豫定である。又各

地を通じ多數原住民の生業とする「コブラ」を如何に處理するかは統治上にも大なる問題であるので、「コブラ」管理組合を設けて「コブラ」の蒐集、内地への輸送および現地における搾油等の事業を行はしむることとなり、その一部はすでに進出してゐる。なほ「コブラ」から代用燃料を採ることも奨勵して、現に「ディーゼル」用代用燃料として使つてをり今後一層擴充する方針である。また「ボルネオ」の護謨栽培事業を如何にするかと謂ふことも、これに従事する約七〇萬人の土民の生活を最小限度に維持する必要より見ても重要な問題であるので、「バンジェルマシ」附近では「ゴム」および「ラテックス」の製造事業を起して「ゴム」の消化に努めてゐる、斯くて之等原住民の生業に對し極力生産規制を避けその生活を維持し得るやう努めてゐる實情である。

### 三、經濟開發

南方地域における經濟開發は國防重要資源の取得開發を第一義とし、概ね所期の成績を得てゐるが、全般の問題として輸送力の增強が刻下の急務である。以下主要事業につ



き大要を述べると

(一) 石油關係施設は敵の手により何れも甚だしく破壊されてゐたが、我軍占領後異常の努力により急速復興し昨年末までに「ボルネオ」においては「タラカン」「サンガサング」の出油を見、その他「セラム」は復舊に着手し一部の出油を見つゝあり「タンジョン」(ボルネオ)は昨年十二月までに調査を完了したので、目下開發準備中にて、直に出油を期待し得る状況にある「バリツクパパン」製油所は周知の通り施設及び港灣併せて優良なることにおいて殆ど類を見ざるものであり、占領と同時に復舊に着手し銳意努力の結果、現在既に十分の製油能力を發揮し得るに至つてゐる。

(二) 「ボルネオ」の石炭は今後南方開發上重要な地位を占むるものと考へられ目下「ブラウ」(タラカン南方)「ロクアール」二個所を復舊し出炭中である。

(三) 「セレベス」の「ニツケル」礦の採掘は極めて順調に進み現在までに相當量を内地向に送り出してゐる。

(四) 棉作は「セレベス」小「スンダ」が有望であり今年

度「メナド」附近において約二五〇〇町歩栽培し極めて良質の棉花を得た、來年度においては本格的に植付を行ふ豫定でありその後逐年増産の計畫を樹立してゐる。

(五) なほ將來の開發計畫を確實化するため「セレベス」「ボルネオ」「セラム」及び小「スンダ」等の地域に對し鑛産、電力、農林、水産各部門の應急調査を實施中であり、又「ニューギニア」に對しては前述の通り鑛産物農林水産の急速調査を行ふため探險隊を派遣してゐる。

(六) 占領地の通信に關しては目下海軍軍用通信を主用としてゐるが、統治開發上急速處理を要するので從來の施設を新状態により重點的に斟酌して昨年末までに一應の復舊を完成して郵政關係員國際電氣通信會社その他の會員を派遣し、既に「マカツサル」においては昨年十二月八日以來放送を開始し通信電話等の事業も二月一日より實施中である。

(七) 交通—海上交通は幹線と沿岸航路に分ちそれぞれの擔當者はすでに定まつてをり幹線たる内地との定期航路は目下開設計畫中であり、また沿岸航路の一方は一部す

でに實行されてゐる。輸送力の増強は内外各地を通じ目下の急務であるので徵備船舶の活用をはかると共に、沈船の引揚、木造船の利用等中央現地を通じ極力努力してゐる、特に木造船は現地においても銳意努力中であり、約十一個所に業者を進出せしめ、十八年度中に一五〇噸乃至五〇〇噸級機帆船相當量を建造する計畫である。海上輸送により内地向に積出してゐる主なる物資は「ニツケル」「コブラ」「生ゴム」「ダマル・コパール」線綿等で、國防資源の充足に相當寄與してゐる。

陸上交通の「バス」「トラツク」等の整備は治安維持及び開發上緊急を要するので之も有力なる擔當業者を進出せしめ逐次整備してゐる。

現在「ボルネオ」「セレベス」「セラム」等においては「バス」を運轉してゐるが未だ十分なる域には達してゐない。

(八) その他現在までに進出したものは主として國防資源取得のための特殊の業者が選ばれたが、事態の進展と共に現地の經濟状態も速に平常化する必要があるので中間

經濟機構整備のため内地中小商工業者を進出せしむる必要ありと認め、その具體的調査のため代表的業者數名を近く現地に派遣の豫定である。

(九) 「ニューギニア」の資源開發は前述したる探險隊の調査を待つて實行のことゝなるが、差當り食料の自給自足を急いでゐる中部東部北岸地方の鑛産その他全般を通じての林産等は極めて有望と考へられる。

#### 四、財政通貨金融

既に概ね諸機構の整備成り現に日本側金融機關の進出開

店せるものは  
「セレベス」の「マカツサル」「メナド」  
「ボルネオ」の「バンチャルマシ」「バリツクパパン」  
「タラカン」「サマリダ」「ボンチャヤク」  
「セラム」の「アンボン」  
「ニューブリテン」の「ラバウル」  
「小スンダ列島」の「シンガラジャ」

等であり何れも日銀國庫代理店南方開發支金庫若しくは出張所として臺灣銀行がその事務、代理に當つてゐる。在來



の金融機關中開店せしめたものは庶民銀行一行で「マカツサル」外十三店を開いてゐる。

### 五、文化關係

文化方面においては原住民學校の大部は既に復興して教育を行つてゐるが、その他に「マカツサル」「バンヂヤルマシン」「アンボン」等を始め民政部支部のある町は何れも日本語學校を創めて日本語普及に努めてゐる。なほ「マカツサル」には原住民教育のため師範學校、農業學校および工業學校の設立を計畫中であり、近く開校の運びになつてゐる。

馬來語新聞は既に發行してをり、日本語新聞も「セレベス」および「ボルネオ」では既に昨年十二月八日から發刊してゐる。

六、以上のほか「ガム」「ニューブリデン」および「アングマン」にはそれぞれ民政部を置いて海軍指揮官の下に民政を行はしめてゐるが、なかんづく「ニューブリデン」の「ラバウル」民政部は作戦の第一線にあり、文武官協力克く軍政統治の使命を果してゐる。その他「クリスマス

島」においては着々燐礦石の開発を行つて居り、今日までに「ジャワ」方面に相當量を積出し内地に輸送の手配中である。

七、以上各般に亘り大要を記したるも、之も要するに占領地軍政は大東亞戰爭完勝を期し、作戰軍の要求充足と國防必需物資の急速開發とを第一義とし、重點的施策により戰爭遂行に寄與せんとするものにして、今日までの處着々その実績を擧げてゐるが占領地域は概ね決戰場至近に位し日々の戦闘の要求を充足せねばならぬこと勿論であり、特に後方補給と現地自活とは緊急問題であるので文武官協力して異常の努力を拂つてゐる現状である。

製本控

同第 號

書名	967	110	年	月	日
著者	大東亞戰爭(卷)の準備				
受入	年	月	日		
備考					





昭和十八年六月廿五日印刷  
昭和十八年七月一日發行

發行者 大阪南方院  
片山彌六

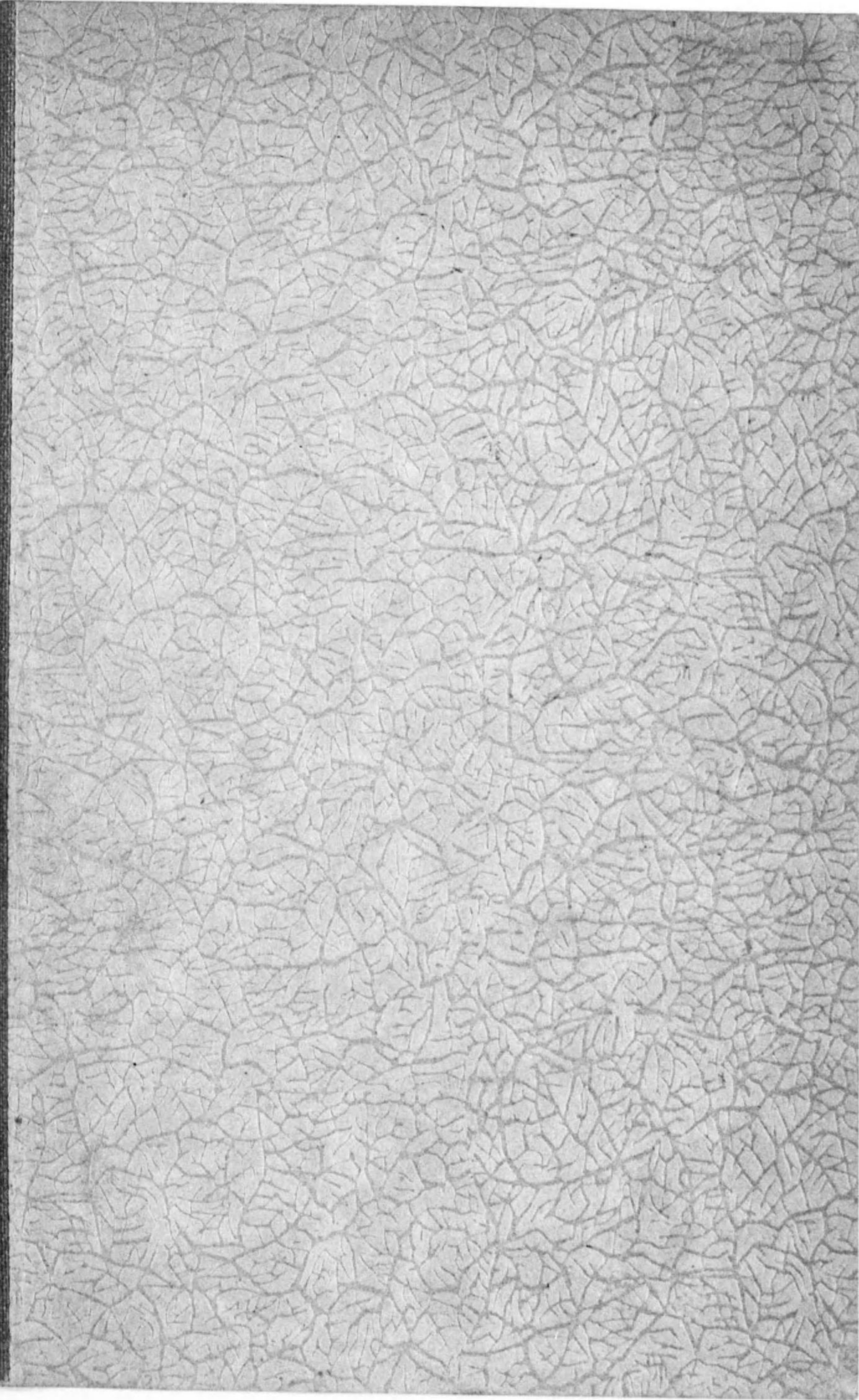
印刷者 西井幾藏  
大阪市東區内本町橋詰町

印刷所 ナニワ印刷所  
大阪市北區川崎町七番地

(西大一四六六) 大阪市北區川崎町十番地



967  
110





終

